

令和6年度

第3回 第9地区教科用図書採択教育委員会協議会 議事録

第9地区教科用図書採択教育委員会協議会

1. 期 日

令和6年8月1日（木曜日）

2. 場 所

北見市端野総合支所 2階大会議室

3. 出席委員

大空町教育委員会	教 育 長	関 谷 正 樹
美幌町教育委員会	教 育 長	矢 萩 浩
津別町教育委員会	教 育 長	近 野 幸 彦（欠席）
	学校教育係長	松 本 龍 馬（代理）
斜里町教育委員会	教 育 長	岡 田 秀 明
清里町教育委員会	教 育 長	野 呂 田 成人
小清水町教育委員会	教 育 長	加 藤 友 幸
訓子府町教育委員会	教 育 長	高 橋 治
置戸町教育委員会	教 育 長	平 野 毅
佐呂間町教育委員会	教 育 長	二 神 孝 久
遠軽町教育委員会	教 育 長	佐 藤 祐 治
湧別町教育委員会	教 育 長	阿 部 勉
滝上町教育委員会	教 育 長	奥 田 直 美
興部町教育委員会	教 育 長	畑 山 研 二
西興部村教育委員会	教 育 長	飯 束 亨
雄武町教育委員会	教 育 長	豊 田 通 敏
北見市教育委員会	教 育 長	佐 々 木 賢 一
網走市教育委員会	教 育 長	岩 永 雅 浩
紋別市教育委員会	教 育 長	牧 野 昌 教

4. オホーツク教育局

オホーツク教育局教育支援課義務教育指導班主査 安 田 秀 憲

5. 事務局員

北見市教育委員会 学校教育部 次長	中 嶋 正 弘
北見市教育委員会 学校教育部 学校教育課 長	大 関 良 隆
北見市教育委員会 学校教育部 指導室 主幹	小 野 寺 幸 司
北見市教育委員会 学校教育部 学校教育課 学校教育係 長	上 家 悠 輔

6. 会議に付した議題

- （1）令和7年度から使用する第9地区教科用図書の採択にかかわる情報公開の取り扱いについて
- （2）令和7年度から使用する第9地区教科用図書の採択について
 - ①中学校教科用図書及び小・中学校特別支援学級教科用図書（一般図書）に係る小委員会からの報告並びに採択決定協議について

7. 議 事

午前10時00分 開会

(1) 令和7年度から使用する第9地区教科用図書の採択にかかわる情報公開の取り扱いについて

中嶋事務局長より、議案1ページにより説明

- ①令和5年度に実施した情報公開と同様の方法で実施すること
- ②請求期間について、令和6年9月1日から開示すること
- ③取扱要領の施行日を、令和6年8月1日とすること
- ④協議会終了後、各市町村教育委員会で教科書を採択した後に、採択結果や理由、協議会の議事録及び調査研究資料などをホームページに掲載するなど、積極的に情報公開を行うこと

全員異議無く、説明どおり了承

(2) 令和7年度から使用する第9地区教科用図書の採択について

①中学校教科用図書及び小・中学校特別支援学級教科用図書（一般図書）に係る小委員会からの報告並びに採択決定協議について

中嶋事務局長より、小学校教科用図書及び特別支援学級教科用図書（一般図書）の採択に係る進行手順等に関して、次の3点を説明

ア. 採択の区分について

- i) 国語の科目については、国語と書写について別々に採択すること
- ii) 社会の科目については、地理的分野・歴史的分野・公民的分野・地図について別々に採択すること
- iii) 音楽の科目については、一般と器楽合奏について別々に採択すること
- iv) 技術・家庭の科目については、技術分野と家庭分野について別々に採択すること
- v) 特別支援の科目については、不採択するもののみを決定すること

イ. 採択の順序について

議案と別に配付している会議日程に記載の順で行うこと

ウ. 採択の方法について

- i) 各調査委員会委員長からの調査研究報告を受けた後に委員長への質疑応答を経た後、委員長退席後に全会一致となるまで意見交換・協議をすること
- ii) 協議が調わない場合は、協議会規約第8条により「協議会役員で協議し、協議会会長が決定すること」とすること

全員異議無く、説明どおり了承

以降、委員長報告および採択決定協議

【国語（国語・書写）】

◆委員長報告

委員長／国語小委員会委員長、清里町立清里中学校 校長 湯浅啓介。

国語小委員会は、9名の調査委員で、7月4日に開催されました第1回調査委員会以降、計3回にわたり、「教科書編集趣意書」、道教委発行の「採択参考資料」等を参考にしながら、観点に従って調査研究を行った。これから「国語」及び「書写」の順で報告を申し上げる。

まず、国語の調査研究報告書は「取扱内容」において学習指導要領に示された「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」そして「主体的に学びに向かう態度」の観点としての「主体的・対話的で深い学び」の3事項に加えまして、「内容の構成・排列」に関する表記とし、全部で4項目の観点で記載をしている。また、「使用上の配慮等」においては、生徒が見通しをもって学習に主体的に取り組めるか等、3項目の観点で記載した。

最初に、東京書籍「新編 新しい国語」について。

本書については本編と資料編の2部構成になっており、本編の8単元で構成された「話す・聞く／書く／読む」の3領域で、国語の知識や技能を身に付けるとともに、説明したり話し合ったりする言語活動を通して、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになっている。例えば、3年生における「受け取る利他」という論説文は、筆者の主張を吟味・検討するのに適切な教材であると考ええる。1年生の古典では「移り行く浦島太郎の物語」や「伊曾保物語」を導入教材として扱うなど、こういう特色が見受けられる。また、巻末の資料編で近代および現代の文学作品、論説文、古典とそれに関する解説文を掲載しており、国語への興味・関心を広げる工夫がされている。また、その他の観点における調査研究結果は、報告書にあるとおり。

次に、三省堂「現代の国語」について。

本書については本編と資料編の2部構成になっており、本編の9単元で構成された「話す・聞く／書く／読む」の3領域で、国語の知識や技能を身に付けるとともに、説明したり話し合ったりする言語活動を通して、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになっている。例えば、1年生における「1000円の価値を考える」という説明文では、データや資料を関連付けて思考し、「三角ロジック」を取り上げることで論理的思考力を鍛えるために入門編として適切な教材であると考ええる。2年生の「資料や機器を活用して効果的に発表する」という教材ではプレゼンテーションに関する基本が丁寧に説明されている。また、巻末の資料編で近代および現代の文学作品、論説文、古典を掲載しており、国語への興味・関心を広げる工夫がされている。その他の観点における調査研究結果は、報告書にあるとおり。

次に教育出版「伝え合う言葉 中学国語」について。本書については、「本編」「言葉と文法解説編」「言葉の自習室」の3部構成になっており、「言葉と文法解説編」は本編に準じた扱いになっている。本編の8単元で構成された「話す・聞く／書く／読む」の3領域で、国語の知識や技能を身に付けるとともに、説明したり話し合ったりする言語活動を通して、自分の思いや

考えを広げたり深めたりすることができるようになっている。教材に入る前に「学びナビ」で本教材の学び方を示し生徒に見通しを持たせ、教材の学習後に「みちしるべ」および「振り返り」をさせることで、単元を見通した学習になるよう工夫されている。また、全学年に「学びのチャレンジ」を教材として設定し、全国学力学習状況調査等、今的な学力観に対応できる工夫がされている。また、その他の観点における調査研究書報告結果は、報告書にあるとおり。

次に光村図書「国語」について。

本書については本編、「学びを深める」とした文法学習事項、資料編の3部構成になっており、本編の8単元で構成された「話す・聞く／書く／読む」の3領域で、国語の知識や技能を身に付けるとともに、説明したり話し合ったりする言語活動を通して、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになっている。例えば、1年生における「項目を立てて書こう」では、目的や相手に合わせて必要な情報を書く方法について学ぶ適切な教材であると考えられる。また、全学年で「学びへの扉」を掲載し、教材の学習の流れを見通して課題に取り組めるよう工夫されている。この「学びへの扉」は横表記となっている特色が見受けられる。巻末の資料編で近代および現代の文学作品、論説文、古典を掲載しており、国語への興味・関心を広げる工夫がされている。また、その他の観点における調査研究結果は、報告書にあるとおり。

続いて書写について報告を申し上げる。

書写については、観点から各者の特色についてそれぞれ報告する。書写の調査研究報告書は「取扱内容」において、「硬筆および毛筆における学習活動」、「硬筆と毛筆の関連における学習活動」、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」、さらに「内容の構成・排列」に関する表記とし、全部で4項目の観点で記載している。また「使用上の配慮等」においては、生徒の学習意欲の高め方に関する工夫等、3項目の観点で記載している。まず、教科書の体裁は各者とも1～3年生を通じた1冊構成になっており、3年間を見通した学習が可能となっている。その中で教育出版の「中学書写」はB5版より横が2.8cm長いA4版、いわゆるワイド版であることが特色。次に、教科書の構成については、各者とも学習指導要領に従い、毛筆・硬筆・筆記用具を生かし、日常生活と関連した実用的で効果的な文字を書くという排列になっており、各者とも毛筆を主とした「姿勢と用具の使い方」が巻頭に示されている。その中でも光村図書は「タブレットを使う姿勢」と今日的な学習に関して触れていることが特色。また、1年生の毛筆の学習における最初の教材は、三省堂、教育出版、光村図書が「天地」を、東京書籍が「大志」を楷書で書くことになっており、楷書の基本点画である「払い」や「曲がり」等に意識をおいた学習ができるようになっている。さらに中学校で初めて学習する行書については東京書籍が「日光」、三省堂が「名月」、教育出版が「大洋」。光村図書が「大木」となっており、各者とも楷書よりも速く書くことができ、点画の連続を生かした行書の基礎が学習できるようになっている。さらに2年生では、毛筆においてよりレベルの高い行書及び

行書に調和する仮名の学習を進めるようになっており、仮名文字を書く教材が設定されている。三省堂、教育出版、光村図書が「いろは歌」を、東京書籍が「五十音図」を主に扱っている。その中で三省堂は、行書に調和する仮名の学習の直後に硬筆で行書を書く教材を配置していることが特色。そして3年生では「身の回りの文字」として各者とも多様な文字文化について触れており、生徒の学習意欲が高まるように工夫されている。その中で東京書籍は、身の回りという視点に立ち、学校で使われている文字を最初に紹介した上で街中から日本各地へと広げていくことが特色。

最後に、東京書籍、教育出版、光村図書は「書写テスト」、三省堂は「学力テスト」という名称の単元で全国学力学習状況調査に対応した設定をしている。その中でも東京書籍と三省堂は2年生の学習終了後にこのテストとしての教材を配置しており、3年生当初に行われる時期を意識したものと考えられる。その他の観点における調査研究結果は、報告書にあるとおり。

以上で国語小委員会の報告を終わる。

(報告終了)

◆質疑応答

会 長／国語の調査研究報告について質問等はないか。

Q／現行の学習指導要領の重要な理念の1つである「主体的・対話的で深い学びについて、各者がどのような配慮や工夫がされているか。

A／報告書に記載していることについて、もう少し付加してご報告を申し上げます。

東京書籍は「てびき」、三省堂は「学びの道しるべ」、教育出版は「学びナビ」、光村図書は「学びのカギ」の名称で、学習者がその教材にて何を学ぶのかについての視点を理解して学習を進めることは、より主体性が高まることにつながる。従前の授業においてもいわゆる「授業の目当て」は授業者によって示されてきたところであるが、改めて教科書が項目を立ててしっかりと示していることが理解でき、その表記もブラッシュアップされているように見受けられる。

「学び方を学ぶ」「理解の仕方を理解する」といったメタ認知の考え方が各者とも的確に示されていると考える。報告書に記載してあることについて、もう少し付加して報告を申し上げます。東京書籍は「てびき」、三省堂は「学びの道しるべ」、教育出版は「学びナビ」、光村図書は「学びのカギ」の名称で、学習者がその教材にて何を学ぶのかについての視点を理解して学習を進めることはより主体性が高まることにつながる。従前の授業においてもいわゆる「授業の目当て」は授業者によって示されてきたところだが、改めて教科書が項目を立ててしっかりと示していることが理解でき、その表記もブラッシュアップされているように見受けられる。「学び方を学ぶ」「理解の仕方を理解する」といったメタ認知の考え方が各者とも的確に示されていると考えられる。

Q／現行の学習指導要領において、「学習内容の改善・充実」の1つに「語彙指導の改善・充実」が示されているが、これに関して各者はどのような取り扱いを

しているか。

A／語彙力は、全ての教科における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素。そのために必要なことは、日常生活における言語の習得と活用がその大部分を占めるが、学校教育における国語科が果たす役割は大きいと考える。各者の取り扱いについて報告をする。教材本文を読破していく中で語彙の拡充を図るといった最も基本的な姿勢に加え、各者とも教材本文の下部に新出語句を示すといった表記は従前から変わらない。また、教科書のみでは扱い切れない領域でもあり、東京書籍は「デジタル資料室」として「言葉を広げよう」というICTを活用した資料に結び付けている。三省堂は資料編の中で「語彙の広がり」という教材を設定し、類義語・対義語の分野で扱っている。教育出版は巻末の「言葉の自習室」の中で「理解に役立つ言葉／表現に役立つ言葉」という教材を設定し、話し合い活動や自分の考えを示すときに用いる表現について説明している。光村図書は巻末の「学びを深める」の中で「語彙ブック」として従来のページとは別立てにして「情景を表す言葉」「感覚でとらえた言葉」等を系統的に示して学習できるようにしている。とは言え、語彙指導に関する“取り立て教材”を構成するのは大変難しい側面があると、国語の教員をしてきた私としては思うところ。すなわち、この教材を学習することで語彙力が磨かれていくといった現象は起こり得ない。教科書の言葉を丁寧に扱い、取り立て指導を重ねていく授業者の力量に掛かってくる。「語彙力を磨く」とは「知っている言葉を使える言葉にする」ことであり、短い言葉でしか表現できなくなりつつある現代の中学生には大切な指導の1つであると考えている。

Q／「我が国の言語文化に関する事項」の1つとして、「古典の世界に親しむこと」が挙げられるが、古典の指導について各者はどのような取り扱いが示されているか。

A／報告書に記載してあることについて、さらに付加してご報告を申し上げる。古典教材に限ったことではないが、各者とも共通教材が非常に多く、従前から変わっていない。1年生では「竹取物語」と故事成語「矛盾」、2年生では「平家物語」「枕草子」「徒然草」および漢詩「春暁」等、3年生では「おくの細道」「万葉集／古今和歌集／新古今和歌集」および漢文「論語」が取り扱われている。ただ漢文である「論語」と漢詩の「春望」等については、2年生と3年生の取り扱いが逆になっているものもある。教育出版は2年生で「論語」が扱われている。また光村図書では3年生で「論語」を教材として取り上げてはいなくて「古典名作選」という形で引用する形をとっている。各者とも古典の理解を深めるために写真資料や地図などを適切に掲載している。また、古典の文章の特徴である歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直していくなど、音読がしやすいようになっている。その中で三省堂と光村図書においては3年生の古典には歴史的仮名遣いをそのまま本文に掲載するなど、系統を応じた対応をとっているものと思われる。また東京書籍は、導入となる1年生の古典で「移り行く浦島太郎の物語」や「伊曾保物語」を教材として扱っており、いわゆる昔話から理解を始められるよう工夫がされていると考える。

Q／学習指導要領「指導計画の作成と内容の取扱い」における「教材についての留意事項」で「我が国の言語文化に親しむことができるよう、近代以降の代表的な作家の作品をいずれかの学年で取り上げること」が求められているが、各者はどのような取り扱いをしているか。

A／1つの文学作品に限られた時数の中で詳細な読解をしていく授業の進め方は既に終焉を迎えており、読書を生活に役立てるための指導と結び付けて取り扱うことが適切。特に明治以降の近代の作品を国語の授業で取り扱うことが新たな読書に親しむ態度を育てていく契機となるものと考えている。各者とも共通教材として、2年生で扱う太宰治の「走れメロス」がある。1年生では東京書籍と三省堂が芥川龍之介の「トロッコ」を、教育出版が宮沢賢治の「オツベルと象」、芥川龍之介の「蜘蛛の糸」を、光村図書が夏目漱石の「坊ちゃん」を、ただし大変長文で長いので一部を取り扱っている。2年生では東京書籍が夏目漱石の「坊ちゃん」の同じく一部を、三省堂が菊池寛の「形」を扱っている。3年生では東京書籍と教育出版が森鷗外の「最後の一句」を、三省堂が夏目漱石の「坊っちゃん」のこれも一部を、そして森鷗外の「高瀬舟」を扱っている。また、島崎藤村の「初恋」、これは4社とも3年生で教材として扱っている。また中原中也の「月夜の浜辺」は東京書籍の1年生等、近代の詩人の作品も扱われている。

Q／書写においては、毛筆と硬筆の指導の関連付けが求められているが、各者はどのような取り扱いをしているか。

A／毛筆と硬筆の関連についての学習活動は報告書に記載したとおりだが、各者ともに共通した面が見受けられ、毛筆の取組は楷書から行書の順で書き、硬筆の取組は楷書の配列を意識して書き、行書の特徴を踏まえて速さを生かして書くという順を踏んでいる。扱う教材についても、国語の教科書の言葉を各者とも積極的に取り入れて関連付けていることが理解できる。

Q／一人一台端末を踏まえたICTを活用した教科指導が求められているが、これに関して各者はどのような取り扱いをしているか。

A／報告書の「使用上の配慮」及び「その他」に記載に付加して報告する。およそこの3年半の間、一人一台端末の利活用が教育現場の努力によって進められ、それに伴い、学習に進めるにあたり、より効果的なデジタルコンテンツが充実することで個別最適な学びに対応できるようになっていることが伺える。

各者とも二次元コードを掲載し、その教材に関連した学びが展開できるように工夫されている。ただ二次元コードが小さく、タブレット端末での読み取りがうまく機能しない場合もあるだろうということも申し添える。

Q／今回の教科書の改訂に関する調査を踏まえ、国語および書写の教科書に対して総括的な印象はどんな点か。

A／これは委員9名の一致した意見ということでご理解いただければと思う。現行の学習指導要領が平成29年に告示され、平成30年からの移行措置を含

め、本年度が7年目であり、完全実施からは4年目を迎えている。この時間をかけて、現行の学習指導要領の理念が定着しつつある今、これに踏まえた今回の教科書の改訂内容は、よく練られてきた印象を受ける。各者ともに教科書の内容をしっかりと学習することで生徒に着実に国語の力をつけていくことができる工夫がなされており、高等学校入試という一つのゴールを見据えなくてはならない中学校の教育現場では、これらの教科書を使用する授業者の力量がますます問われることになると思う。オホーツクの生徒たちの学力を向上させるにふさわしい教科書を選択していただけることを切に願うばかりだ。

(質疑応答終了)

◆意見交換・採択協議

会 長／引き続き、国語・書写の採択の審議に入る。
まずは国語から。

●各者とも工夫されており、中でも光村図書は、二次元コードからドリルや朗読など多様な展開をしたり、さらに他教科とのつながりを明確にしている。とりわけ言葉をテーマにした教材や語彙・語感を磨く教材が設定され、言葉に関する興味・関心が深まるよう工夫されており、更に各教材の「振り返る」では自分の言葉で学びを価値づける場が設けられているなど、「主体的に学習に取り組む態度」が育まれるよう工夫されている。これらのことから、今、子どもたちに求められている力を幅広く身に付けさせる学びができるようにまとめられている光村図書がより優れていると考える。また、学習指導要領の改訂がなされない中での教科書の変更には学校現場も混乱が予想されるところであり、さらに義務教育学校や小中連携・小中一貫校が増えている中、小学校と中学校の教科書のつながりを無視できないという観点からも、引き続き光村図書が良いと思う。

会 長／他の意見はないか。

(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、国語は光村図書と決定することとしてよろしいか。

(異議なし)

それでは、国語については、全会一致で光村図書の教科用図書を採択することと決定する。

会 長／引き続き、書写の採択の審議に入る。

●各者とも工夫をされており、調査・研究結果からも大きな差はないという印象。

その中でも学習のポイントを示す「学びのカギ」や課題解決のヒントを与えるキャラクターなど、紙面を構成する要素の役割が明確で、主体的学習の手助けとなるよう配慮されている点では、光村図書がより優れているものとする。また、学習指導要領の大幅な改訂がなされない中で、書写は活動そのものは違うが、国語と深いつながりがあるため、国語との連動を考えると、教科書の変更には学校現場も混乱が予想される場所であり、さらに義務教育学校や小中連携が増えている中、小学校と中学校の教科書のつながりを無視できないという観点からも、引き続き光村図書が良いと思う。

会 長／他の意見はないか。

(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、書写は光村図書と決定することとする。
よろしいか。

(異議なし)

それでは、書写については、全会一致で光村図書の教科用図書を採択することと決定する。

【社会（地理的分野・歴史的分野・公民的分野・地図）】

◆副委員長報告

副委員長／社会小委員会副委員長の網走市立第四中学校教頭の北川大。

社会小委員会は、9名の調査委員で7月4日に開催された第1回調査委員会以降、「教科書編成趣意書」、道教委発行の「採択参考資料」等を参考資料としながら、取り扱い内容、内容の構成・排列、使用上の配慮等の観点に従って調査研究を行った。

それでは、地理・歴史・公民・地図の分野ごとにそれぞれの観点に基づいて報告する。

初めに地理的分野について。

地理については教育出版、帝国書院、東京書籍、日本文教出版の4者について調査研究を行った。取り扱い内容については各者とも、関心を高め、多様性や地理的・地域的特色を理解するなど、身に付けた調査の視点や方法から地域の課題を解決していく工夫がなされている。内容の構成・排列につきましては各者とも、課題の設定からその分析と解決に個人やグループで取り組む活動を取り入れていた。また、単元全体で考えを深めたり、広めたりする学習活動が取り上げられ、分量も妥当。使用上の配慮事項。

各者とも生徒の学習意欲を高める工夫がされており、基礎事項の確認や要約・説明等の活動を通し、主体的に学習に取り組めるよう配慮されており、一人一台端末を利用した二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られていた。地理的分野については以上となる。

続いて、歴史的分野について。

歴史は教育出版、山川出版、自由社、帝国書院、東京書籍、日本文教出版、令和書籍の7社について調査研究を行った。取り扱い内容については各者、小学校で学習した人物、文化財等を発展的に調査したりまとめたりする学習や、歴史的特徴を多面的・多角的に考察したり、時代の特色を理解したりする活動ができるよう工夫されていた。内容の構成・排列については各者とも、学習課題を設定して見通しを持たせるとともに、資料を基に話し合っ、考えを広げたり深めたりする学習活動が取り上げられており、主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応がなされていた。また、歴史の学び方についての学習後に、時代ごとの特色について学ぶなど、系統的・発展的に学習できるような工夫もなされており、分量も妥当。使用上の配慮事項については、各者とも、北海道の文化や歴史、北方領土やアイヌの人たちに関する内容を掲載し、生徒の学習意欲を高める工夫がなされていた。

続いて、公民的分野について。

公民的分野は教育出版、自由社、帝国書院、東京書籍、日本文教出版の5者について調査研究を行った。取り扱い内容については各者とも対立と合意、効率と公正などに着目して、国や地方公共団体の果たす役割を考察したり、より良い社会を築いていくために解決すべき課題を考察し、説明や論述したりする活動が工夫されていた。内容の構成・排列については各者とも、学習課題を設定し見通しをもたせるとともに、課題について調べたり、話し合ったりする活動を設け、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられていた。また、課題を探究する活動を設定し系統的・発展的に学習できるよう工夫がなされており、分量も妥当。使用上の配慮事項については各者とも、北海道の事例から地方自治を考察できるようにしたり、北海道の写真を掲載したりするなど学習意欲を高める工夫がなされていた。また、章や単元の冒頭や終末において学習の見通しや、学んだことを振り返って整理する活動を掲載するなど主体的に学習できるよう工夫されていた。

最後に地図について。

地図については、帝国書院、東京書籍の2者について調査研究を行った。取り扱い内容については、各者とも、地域に見られる特色を示す事項についての主題図、写真、グラフ等の資料を数多く取り入れ、事象についての関連や相違を考察しやすく工夫されていた。また、内容の構成・排列については、各者とも読図、二次元コードを通して地域の特色を整理したり、話し合ったりする活動ができるようになっており、考えをまとめる学習活動が取り上げられていた。使用上の配慮事項については、各者、北海道に関する多くの資料が掲載されるとともに、北海道の一般図も全体が見渡せるものと拡大されているものが用意され、生徒の学習意欲を高める工夫がされていた。

次に、小委員会における協議の概要について説明する。小委員会におい

て、次の4点について確認をした。1つ目、各者とも写真や統計資料が豊富に掲載されており、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされていること。2つ目、各者とも身近な事例を取り上げ、自分の考えを説明したり論述したりする活動がしやすく工夫されていること。3つ目、各者とも主体的・対話的で深い学びの実現が図られるよう随所に様々な工夫がなされていること。4つ目、最後に各者とも学習課題を立てる「導入の活動」や単元の学習課題を解決する「まとめの活動」を設定するなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされていること。また、検討事項の確認ということで3つあった。歴史と地理・公民の教科書会社の違いと指導上の課題等、地図と地理の教科書会社の違いと指導上の課題等、個別最適な学びと協働的な学びに向けた内容の違いと指導上の課題等を確認した。

以上で社会小委員会の報告を終わる。

(報告終了)

◆質疑応答

会 長／社会の調査研究報告についてご質問はないか。

Q／「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成が求められているが各者どのように取り組われているか。

A／各者、単元を貫く課題を設定し、生徒に見通しをもたせ、課題解決的やまとめの学習を設定し、「見方・考え方」の視点や方法を示すことで、「社会的な見方・考え方」を働かせ、資質・能力が身につくよう単元を構成されている。

Q／よりよい社会の実現に向けて、多面的・多角的に考察、構想したことを社会生活に生かそうとする態度の育成が求められているが各者どのように取り組われているか。

A／小学校社会科から中学校社会科へと接続していく過程で、中学校社会科は分野別の構造になっており、社会的事象を多面的・多角的に考察することや複数の立場や意見を踏まえて構想することなどが求められており、また、学習対象も小学校以上に世界へと広がりを見せている。各者ともこうした点を踏まえて、各分野ならではの視野、国内外の社会的事象等を取り扱う地球的な視野で単元を構成されている。

Q／基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得が求められているが、各者どのように取り組われているか。

A／知識・理解は我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等について理解するとともに既得の知識と関連付けたり組み合わせたりしていくことにより、学習内容の深い理解と個別の知識の定着を図るとともに、社会における様々な場面で活用できる概念などに関する知識として獲得できるようになっている。技能については地域調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる

技能を身に付けるために、調査活動や諸資料の活用などから社会的事象に関する情報を収集する技能、収集した情報を社会的な見方・考え方を働かせて読み取る技能、読み取った情報を課題解決に向けてまとめる技能が身に付けられるよう各者とも工夫されている。

Q／歴史・地理・公民の教科書会社の違いによる指導上の課題について、どういったことが考えられるか。

A／教科書会社が違うことによる指導上の悩みはあると思う。地理・歴史、平行型で使用するうえでは同一教科書であった方が用語の統一等が図られること。また、同一の教科書会社であれば、系統の似た図版・写真・資料等が使われており、違和感なく取り組めるといえる。また、地図と地理の教科書は、同一の方が同じデータを使っており、数値等も生徒が理解しやすいと考えられるということで、課題等・指導等の違いがある。

Q／アイヌの人たちの歴史や文化等に関する学習が大切あるが、このことについて、各者、どのように取り扱われているか。

A／アイヌの人たちの歴史や文化等に関する学習は、各者、民族の歴史や文化、交易、人権、地名などについて、教科書本文、囲み資料、写真などを用いてアイヌ民族の歴史や文化について取り上げている。取り扱う箇所やページに差はあるが、アイヌの人々の歴史的経緯や「アイヌ語」に由来する事項を取り上げるなど、アイヌ民族に関する学習の導入や発展的学習が図れるよう配慮されている。

Q／地図についても各地域の特色を考えるようにすることが求められているが、特に、北海道に関する記述について、各者どのように取り扱われているか。

A／数多くの写真を取り入れ、事象の分布や空間的広がりと実際の景観を結び付ける工夫がされている。北海道の一般図については、全体が見渡せるものと拡大図が用意され、用途によって調べやすくなっている。

Q／小学校社会科との接続が重要であるが、各者どのような配慮がなされているか。

A／各単元の冒頭で、小学校の教科書に登場する語句や写真・イラストなどの資料を使った学習の振り返りができるように構成されている。また、学習の節目で小学校での学習を想起し、中学校での学習の見通しを立てたうえで、各単元の学習に進むことで、「見方や考え方」を高め、理解をより深められるように工夫されているため、小学校と中学校とをつないだ「小学校3年生からの7年間の社会科学習」が展開されている。

Q／ICTを活用した学習方法について。各者はICTを活用した学習方法をどのように取り入れているか。

A／各者とも、一人一台の端末を活用した学習活動として二次元コードが掲載されているが、コンテンツの内容には格差がある。国土地理院等へのリンクのみ、

自社の復習教材、NHKフォースクールなどがある。

Q／「北方領土」、「竹島」、「尖閣諸島」については、各者どのように取り扱われているか。

A／竹島・尖閣諸島については、地理、歴史、公民、地図帳全ての教科書で取り扱われている。

Q／各地域の特色について学習するが、特に北海道に関する学習においては、各者どのように取り扱われているか。

A／各社とも北海道の「自然環境」「歴史環境」「地方自治」を中心とした各種資料、写真などを通じての考察を通し、生徒の学習意欲が高まるよう工夫されている。

Q／個別最適な学びと協働的な学びについて個別最適な学びと協働的な学びを推進するため、各者、どのような配慮がなされているか。

A／地理では「日本の地域構成」で、歴史では「近代の日本と世界」で、公民では「私たちと国際社会の諸課題」で、地図では「日本全図」において取り上げられている。

Q／各者はICTを活用した学習方法をどのように取り入れているか。

A／二次元コードを単元または題材ごとに記載しており、一人一台端末から、学習内容に関連したやワークシートが表示されるようになっている。これにより、情報を効果的に調べたり、個に応じた学習を生徒が主体的に進めやすくなったっており、「個別最適な学びと協働的な学び」につながるように配慮されている。合わせてデジタル教科書も発行されている。

Q／個別最適な学びと協働的な学びに向けた内容の違いと指導上の課題等

A／導入、本文、まとめまでの一連の流れの中で、生徒が主体的に「個別に思考」「協働学習」を行いやすいものとそうでないものに格差がある。

(質疑応答終了)

◆意見交換・採択協議

会 長／引き続き、採択の審議に入る。

まずは社会の地理的分野から。

●地理の教科用図書の発行者は4者あり、それぞれに学習意欲を高め、主体的に学習に取り組む工夫が見られ、内容に大きな差は見受けられなかった。その中で、導入部分で・学習の見通しや見方・考え方を提示することで、学習の始まりの意識付けの役割を明確にし、生徒の関心を引く工夫があることや学びや資料の活用を支援する学習コーナーを設けたり、社会への関心を高め、自ら行動していこうとする態度を涵養できるページが充実しているので、地理・歴史・公民の各分野

の学びを関連させて、社会をより深く理解することができる内容と構成になっていることから、教育出版を選定するのが良いと考える。

●教科書4者とも学習意欲を高め主体的に学習に取り組めるようになっており、内容においては大きな差は見られなかった。4者の中で教育出版は、「アイヌの人たちの歴史文化」等を取り上げているページ、「北方領土」に関する内容を取り上げているページ、「道内の市町村」を取り上げている場所数は、ほかの会社よりも一番多くなっている。地理・歴史・公民の各分野の学びを関連させ社会をより深く理解することができる内容・構成となっている。身近な地域から社会を考えることができる教材内容となっており、課題解決に取り組むことができる内容が充実していると思う。小学校から高等学校までの学びのつながりを意識した内容となっていることから、教育出版を選定すべきと考える。

会 長／他の意見はないか。

(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、社会の地理的分野は教育出版と決定することとしてよろしいか。

(異議なし)

それでは、社会の地理的分野については、全会一致で教育出版の教科用図書を採択することと決定する。

会 長／引き続き、社会の歴史的分野の採択の審議に入る。

●各者とも内容においては大きな差はないが、帝国書院が良いと思う。イラスト資料やイラスト地図の充実が工夫されており、生徒の学習意欲を高めるような工夫が非常に施されていると受け止めている。また、SDGsと歴史の関連を意識できるような特設コラムを設け、環境保全や自然災害の学習も十分できるように工夫されている。北海道に関わりのある内容も多く取り上げ、こういったところも非常に良い教科書と感じる。そして、世界の中での日本の歴史背景を掘り下げやすいような配慮がなされており、総合的な評価として帝国書院が良いと思う。

●各者とも学習意欲を高め主体的に学習に取り組める工夫がみられており、内容においては大きな差はない。人々の営みが体感できるイラスト資料、イラスト地図により生徒の学習意欲を高め時代の特色がわかりやすくなっている。世界の歴史がイメージできるという形になっている。また、資料も充実しており、多面的・多角的に日本の歴史をとらえるさまざまな工夫がされている。世界の中で日本の歴史背景も掘り下げやすい配慮がなされている。また、日本のあゆみと世界の動きをさまざまな視点から、学べる教科書として帝国書院を選定してはと思う。

会 長／他の意見はないか。

(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、社会の歴史的分野は帝国書院と決定することとしてよろしいか。

(異議なし)

それでは、社会の歴史的分野については、全会一致で帝国書院の教科用図書を採択することと決定する。

会 長／引き続き、社会の公民的分野の採択の審議に入る。

●4者とも学習意欲を高め主体的に学習に取り組める内容になっていると見受けられる。内容においては大きな差は見られないが、教育出版が良いと思う。地理・歴史・公民の各分野の学びを関連させ、社会をより深く理解することができる内容構成となっている。身近な地域から社会を考えることができる教材内容となっており、課題解決に取り組むことができる内容がとても充実していると考え。小学校から高等学校までの学びのつながりを意識した内容構成となっていることから、教育出版を選定すべきと考える。

●教育出版が良いと思う。導入部分で学習の見通しや見方・考え方を提示して、学習の始まりの意識づけの役割を明確にしておき、生徒の関心を引く工夫がある。また、社会への関心を高め、自ら行動していこうとする態度を涵養するページが充実している。北海道に関わりのある内容も多く取り上げており、地域に関心を持つことができるような工夫があるなど、総合的な判断として教育出版を選定したい。

会 長／他の意見はないか。

(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、社会の公民的分野は教育出版と決定することとしてよろしいか。

(異議なし)

それでは、社会の公民的分野については、全会一致で教育出版の教科用図書を採択することと決定する。

会 長／引き続き、社会の地図の採択の審議に入る。

●地図の教科用図書の発行者は2者で、内容に大きな差はないが、帝国書院を選定するのが良いと考えている。選定理由の一番には、見やすさの工夫が挙げられる。絵記号のデザインやレイアウトの統一化が図られ、鮮やかな印刷で目に優しく、明るくとても見やすい地図帳。世界と地域の特色が捉えやすく、迫力ある鳥瞰図も世界への関心を引き出すものになっている。また、自然災害や防災への意識を高められる資料も充実していて、SDGsについて考察できる資料も充実しているので帝国書院を選定するのが良いと考える。

●2者の比較ということでは、私も帝国書院が良いと思う。細かい点ではあるが、地図を読む上で大事な情報である縮尺が、各ページインデックス部分に見やすくはっきりと表示されている。また巻末には、領土、領海、領空の定義を文字だけでなく、視覚的に理解できる図を掲載するなどの工夫が見られる。アイヌ語地名も28か所について地図上に示して紹介している。そして、「地図で発見」の問いがとても洗練されており、地図分野に留まらない幅広い問いとなっていることから、教科横断的な学習につながることを期待できる。総合的な判断として帝国書院を選定したい。

会 長／他の意見はないか。

(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、地図は帝国書院と決定することとしよう
しいか。

(異議なし)

それでは、地図については、全会一致で帝国書院の教科用図書を採択することと決定する。

(小休憩)

【数学】

◆委員長報告

委員長／数学小委員会委員長、北見市立高栄中学校長 久間博文。

数学小委員会は、5名の調査委員で、3回開催した。第1回調査委員会以降、「教科書編修趣意書」、北海道教育委員会発行の「採択参考資料」等を参考資料とし、取扱内容、内容の構成・排列について6観点、使用上の配慮等について3観点の計9観点を設定し、ポイントとなる学年の教科書にスポットを当てつつ、学年間のバランスをとりながら調査研究を行った。まず、取扱内容、内容の構成・排列の6観点について説明する。観点1「数と式」は、

無理数を扱う第3学年の二次方程式。観点2「図形」は、論証が重要視される第2学年の三角形・四角形。観点3「関数」は、関数概念のスタートとなる、第1学年の比例・反比例。観点4「データの活用」は、前回新たに加わった内容を扱う第2学年。観点5「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」は、深い学びへの展開が期待される第3学年での特徴的な単元。観点6「内容の構成・排列」は、学年バランスを考え、第1学年の図形の移動と作図。このように、ポイントを踏まえ、スポットを当てて調査研究を行った。次に、使用上の配慮等の観点7・8・9について説明する。観点7は、生徒の学習意欲を高めること。観点8は、主体的に学習に取り組むこと。観点9は、使用上の便宜。なお、観点9の使用上の便宜は、ノート作成指導、二次元コード端末学習、ユニバーサルデザインフォントの採用、読みやすい位置での文章改行、見分けやすい配色などについて、多少の違いはあるものの、全者で採用されており、この後の説明では割愛する。また、その他の欄にある「学習者用デジタル教科書の発行」も全者で予定されており、この点も、この後の説明では割愛する。それでは、1者ずつ調査研究の結果について報告する。

まず東京書籍。

一定の長さのロープで囲んだ長方形の面積について、実際に長方形を書いて調べる活動を通して、文字を用いて数量の関係を考察して二次方程式についての理解を深められるようにし、問題発見・解決の過程を通して考える力を身に付けさせる工夫がなされている。ロボットがしゃがむ動作から平行四辺形になるための条件を考える活動を通して、三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用できるようにし、数学と日常生活との関連を実感できる工夫がなされている。水そうに水を入れ始めてからの時間と水の深さの関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、比例、反比例を用いて具体的な事象をとらえ、考察できるようにし、生徒の疑問を引き出し、次の学びに向かう意欲が高まる工夫がなされている。牛乳の販売数のデータを四分位範囲や箱ひげ図を用いて比べる活動を通して、平日と休日の販売数の傾向の違いを読み取り、考察できるようにし、統計的探究プロセスを意識して学習を進められる工夫がなされている。三角形と比の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせ、四角形の各辺の中点を結んでできる四角形について考え、条件を変えて調べた結果について話し合い、考えを広げ深める活動が取り上げられている。基本的な作図の方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようにし、図形を動的に観察・操作できる工夫がなされていた。生徒の身のまわりにある題材を扱ったり、MATH CONNECTとして、数学と実社会とのつながりを示し、数学の有用性を実感できるようにしたりする工夫がなされている。既習内容を生かすことができるようにする「補助発問」の掲載、働かせた見方・考え方を振り返ってレポートにまとめる「章のふり振り返りレポート」の掲載という工夫がなされている。

次に大日本図書。

数当てゲームの計算手順から方程式を作り、いろいろな数を代入し等式を成り立たせる文字の値を調べる活動を通して、二次方程式を解く方法を考察

し表現できるようにし、見出した問題をもとに目当てを設定し、数学的な見方・考え方を働かせる工夫がなされている。遊園地にある乗り物の動きから平行四辺形になるための条件を考える活動を通して、三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用できるようにし、問題発見から解決の流れを示して自主的・自律的に数学的活動に取り組むことができる工夫がなされている。等速で走っている選手の走った時間と進んだ距離の関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え、考察し表現できるようにし、見出した問題の解決の仕方が身に付くことができる工夫がなされている。日本とイランのバレーボール選手の身長データを四分位範囲や箱ひげ図を用いて比べる活動を通して、データの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断できるようにし、統計的な問題の解決の方法に沿った活動となる工夫がなされている。関数の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しを持たせるとともに、自動車の停止距離について考え、停止距離を求めるために必要なことについて話し合い、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。二つの図形の関係について考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようにし、活動・例・例題の適切な配置によって学ぶことを明確にする工夫がなされている。生徒自らが問題や疑問を見出すことができるよう「考えよう」を掲載したり、数学と社会とのつながりが実感できる「MATHFUL」を掲載したりするという工夫がなされている。巻頭における数学の学習の進め方についての説明や問題発見・問題解決の流れを配示した活動を掲載するという工夫がなされている。

次に学校図書。

総数が決まっている太陽電池を長方形に敷き詰めた枚数の関係から方程式をつくり、解を考える活動を通して、二次方程式を解く方法を考察し表現できるようにし、どのように解決していけば良いか、主体的に考えながら取り組める工夫がなされている。段ボール箱の開いている部分を四角形に置き換えて考え、基本的な平面図形の性質を見出す活動を通して、三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用できるようにし、図形の性質が生かされ利用されていることに気付ける工夫がなされている。視力検査に用いるランドルト環の外側の直径と視力の関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、比例、反比例の関係をとらえ、考察できるようにし、比例や反比例が身のまわりで利用されていることを実感できる工夫がなされている。メルボルンと東京の最高気温のデータを代表値や箱ひげ図を用いて比べる活動を通して、分布の傾向を読み取って考察できるようにし、比較して判断する課題を設けることで、対話的な学びが実現できる工夫がなされている。円周角と中心角の学習において、学習課題を設定し、見通しを持たせるとともに、円周角と中心角の関係を予想したり、3つの場合の位置関係についてそれぞれ証明したりするなどして、考えを広げ深める活動が取り上げられている。二つの図形の関係について考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようにし、既習事項とのつながりが分かる工夫がなされている。身近な題材を扱い、話し合い活動を取り入れるための「Q」を

設け、「数学へのいざない」で章の内容を広げ深める興味深い事象を掲示するという工夫がなされている。各章・各節のはじめに「疑問を発見する」ページの設定、章末で自己評価ができる「できるようになったこと・さらに学んでみたいこと」の掲載という工夫がなされている。

次に教育出版。

一定の長さのロープを使って作った長方形の花だんの面積と辺の長さや次数に着目して調べる活動を通して、面積の関係から表した2次方程式を解く方法を考察し表現できるようにし、他者の考えを聞いたり自分の考えを説明したりする場面を設ける工夫がなされている。遊園地にある乗り物の動きを平面図形に置き換えて考え、仕組みを考察する活動を通して、三角形や平行四辺形の性質や平行四辺形になるための条件などを具体的な場面で活用し、数学と日常生活との関連を感じることができるよう工夫がなされている。水そうに水を入れ始めてからの時間と水面の高さの関係を表、式、グラフで調べる活動など、関数関係にある具体的な事象の考察、表現を通して、比例、反比例を捉え、問題発見・解決の数学的活動のプロセスを例示する工夫がなされている。京都における冬日の日数のデータを四分位範囲や箱ひげ図を用いて比べる活動を通して、データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断できるようにし、数学と日常生活との関連を感じることができるよう工夫がなされている。式の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しを持たせるとともに、整数の性質を予想し、それぞれの予想を確かめるために話し合いながら証明を考えたり、振り返ったり深めたりする活動が取り上げられている。正の数、負の数の学習において負の数に拡張する構成となっているなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。「Let's Try」で日常の事象から考え始める章の導入や、「数学の広場」で学習を深めることや、「数学しごと人」で実社会や生活、先端テクノロジーに関する話題の掲載という工夫がなされている。「もどって確認」での既習事項の確認、章末「学習のまとめ」で学習感想を書くという振り返りの場面を設け、学習を評価・改善できるようにする工夫がなされている。

次に啓林館。

カレンダーを見て、ある日の真上の数と真下の数の積の関係を表した方程式を立て、解を考える活動を通して、二次方程式を解く方法を考察し表現できるようにし、自分の考えを伝えたり、他者の考えを自分の考えと比較したりする場面を設ける工夫がなされている。これまでに学んだ図形の性質を利用して、問題の条件を変更しても図形の性質が成り立つかどうかを予想し、解決の見通しを立てて問題を解決しながら、問題解決の過程を振り返ることを通して、さらに問題を深めていくような工夫がなされている。線香に火をつけてからの時間と燃えた長さの関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え、考察し表現できるようにし、数学的な概念・原理・法則を、具体的な例を通して理解できるよう工夫がなされている。接続会社ごとのインターネットの通信速度のデータを四分位範囲や箱ひげ図を用いて比べる活動を通して、データの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断できるようにし、協働学習を進められる工夫がなさ

れている。標本調査とデータの活用学習において、図書委員の立場で図書室の利用状況についてアンケートを取る場面から考察することを設定し、学習した内容を日常生活にどう生かすのか話し合い、解決していく活動が取り上げられている。基本的な作図の方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようにし、既習事項とのつながりが分かる工夫がなされている。「学習のとびら」で、その節の学習を進めれば解決できる実生活の問題を取り上げ、導入補助や自学を想定した解説の動画など、学ぶ楽しさや意義を実感できるような工夫がなされている。全単元に節「〇〇の利用」の配置、ステップ方式利用問題で「深める例」の例示、自学調整「数学の広場」の配置により、知的好奇心を高めて学習に取り組めるような工夫がなされている。

次に数研出版。

周の長さが決まっている長方形の面積と辺の長さの関係を表した方程式を立てていろいろな数を代入して調べる活動を通して、二次方程式を解く方法を考察し表現できるようにし、他者の考えをもとに数学的な見方・考え方を働かせる工夫がなされている。2段重ねの工具箱のアームの取り付け方から四角形などの基本的な平面図形の性質を見出す活動を通して、三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用できるようにし、数学と日常生活との関連を感じることができるよう工夫がなされている。貯金箱から取り出した硬貨の枚数と重さの関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え、考察し表現することができるようにし、対話形式により数学的な見方・考え方を働かせることができる工夫がなされている。1組と2組の体力テストのデータを四分位範囲や箱ひげ図を用いて比較する活動を通して、データの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断できるようし、生活における諸問題に触れられるような工夫がなされている。平行線と線分の比の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、三角形と線分の比を活用する方法について考え、補助線の引き方について話し合い、考えを広げ深める活動が取り上げられている。基本的な作図の方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようにし、既習事項とのつながりがわかる工夫がなされておりました。基礎基本の定着のための「TRY」を設けたり、「考えよう」「調べよう」では、日常生活と数学との関連や数学に関する職業について紹介するページを設けたりするという工夫がなされている。身のまわりにある事象から数学を見出すことができるようにし、生徒同士の対話が示され、「学習の進め方」の記載があり、課題に取り組む際の着目点がわかるような工夫がなされている。

次に日本文教出版。

長さが20cmのモールでつくった長方形の飾りの面積の関係を表した方程式に数を代入して調べる活動を通して、二次方程式を解く方法を考察して表現できるようにし、他者の考えをもとに考えたり、他者と協力して考えたりする学習場面を取り入れる工夫がなされている。上の段が下の段に平行に保たれる箱のネジの位置や棒の長さについて、図形の性質を使って考える活動を

通して、三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用することができるようにし、学習したことを日常生活に活用できる工夫がなされている。正方形の1辺の長さとの長さの変化などの伴って変わる二つの量の関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え、考察し表現することができるようにし、日々の生活と数学の関わりを考える契機となる工夫がなされている。福岡、大阪、東京の猛暑日のデータを四分位範囲や箱ひげ図を用いて比べる活動を通して、データの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断することができるようにし、生活の場面と関連付けて探究していける工夫がなされている。式の展開と因数分解の学習において、学習課題を設定し、見通しを持たせるとともに、根拠を明確にするために目的に合う式の変形や、条件を変えた新しい問題を作り、考えを広げ深める活動が取り上げられている。これまでに学習したことと結び付けて45度の角を作図する学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようにし、既習事項とのつながりが分かる工夫がなされている。章の扉で疑問を抱かせ、どうすれば疑問を解消できるのかと興味を引くような事柄の紹介や、その疑問を数学の問題として解決していく過程を丁寧に扱うなどの工夫がなされている。巻頭に「主体的に学習に取り組む態度」の具体例を明示したり、各章で、数学の良さについて考える活動や数学を生活や学習に生かす活動を適宜設けたりするという工夫がなされている。

以上で、数学小委員会の報告を終わる。

(報告終了)

◆質疑応答

会長／数学の調査研究報告について質問等はないか。

Q／「数学的活動のより一層の充実」と「主体的、対話的で深い学びの実現」に関して特筆ある教科書はどれか。

A／どの教科書も、学習指導要領中学校数学科の目標のもと、数学的な見方・考え方を働かせて数学的活動がより一層充実されるよう、「問い」を抱かせて新たな学習に入り、「問い」を主体的に解決することができるように、対話的な活動を学習過程に取り入れ、新たな知識・技能を習得し、それらを統合し思考、態度が変容する深い学びへと繋がるように構成されていた。学習場面で働かせるべき数学的な見方・考え方を明示して粘り強く取り組むことができるような配慮が見られたのは、学校図書と教育出版。

Q／「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に関して特筆ある教科書はどれか。

A／どの教科書も、ICTやデジタルコンテンツが充実しており、個々の課題に応じてコンテンツを利用できるなど、個別最適な学びにつながるようなつくりとなっている。また、導入課題の工夫や登場人物の会話から生まれた問いや課題、単元の学習を活用する問題を協働的に解決していくため活動やそのための

プロセスが、どの単元にも組み込まれていました。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が図られるような配慮が見られたのは、啓林館と日本文教出版。

Q／数学と日常生活との関連について特筆ある教科書はどれか。

A／どの教科書も、学習ページの随所や巻末などで数学と日常生活とのつながりを紹介し、生徒の興味・関心が高まるよう工夫がなされていた。効果的な例示が見られたのは、学校図書、教育出版、大日本出版。

(質疑応答終了)

◆意見交換・採択協議

会 長／引き続き、数学の採択の審議に入る。

●各者とも学習指導要領の総則や数学科の各学年の目標を達成できるように工夫された学習活動で構成されていると感じる。その中でも教育出版は、全学年を通じて学習意欲を高め、主体的に学習に取り組めるよう『子どもの“問いをもって学び合う”ことの連続による「学びのサイクル」を位置付け、主体的・対話的で深い学びの授業展開を実現している。』ほか、学習内容が系統的・発展的に構成、排列されている。さらに学年の分量も適切で、学校や生徒の実態に応じて弾力的に指導ができるように工夫されているほか、ユニバーサルデザインの採用、人権・多様性の尊重といったインクルーシブ教育への配慮がされており、さらにはデジタルコンテンツである学びリンクを設けて、デジタルの力で学習活動を豊かに、そしてわかりやすく学習を支援する配慮がなされている。以上のことから教育出版が優れているのではないかと思う。

●数学の教科用図書の調査研究に当たって意見を申し上げる。各社とも大変工夫されているが、その中でも「教育出版」が良いと思う。オールオホーツクで進めてきた授業改善を継続する上で、継続して使用した方が良いと思われることと、ストーリー性のある学びのプロセスにより、問題発見・解決の過程を意識することができ、主体的な学びにつながると思う。節ごとに基本の問題があり、章の終わりには「学習のまとめ」や「章の問題」が繰り返し設定され、基礎基本の学びには有効的と考える。また、「学んだことを活用しよう」「数学しごと人」「数学の広場」は、数学への理解を深め、興味関心を高める内容になっていることなどから「教育出版」が良いと思う。

会 長／他の意見はないか。

(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、数学は教育出版と決定することとしてよろしいか。

(異議なし)

それでは、数学については、全会一致で教育出版の教科用図書を採択することと決定する。

(昼食休憩)

【理科】

◆委員長報告

委員長／理科の小委員会委員長 訓子府町立訓子府中学校長 橋本正之。

理科の小委員会は、6名の調査委員で、7月4日に開催された第1回調査委員会以降、「教科書見本本」「教科書編集趣意書」「採択参考資料」等を参考資料としながら、観点に従って調査研究を行った。その結果について報告する。なお、「取扱内容、構成・排列」については、報告書にある通りで口頭での説明は割愛させていただき、主に「使用上の配慮等」について説明する。

最初に、東京書籍「新しい科学」について。

各節の導入時に、生徒の主体性を高める「問題発見レッツ スタート」を設定したり、単元末には生徒の学習意欲を高めるコラムを掲載したりするなど工夫がされている。巻頭でも、探究活動の流れをフローチャートで説明するなど、見通しをもって学習できるような工夫も見られる。また、発展的な課題を紹介し、次の学年に係る学習課題にステップアップできるようにもなっており、科学的な思考を重視し、観察・実験を通して、法則等を導くような構成になっている。

次に、大日本図書「理科の世界」について。

学習内容に関わる写真を多く掲載して視覚的にとらえやすくしたり、章末では最新の科学的知見の読み物資料を掲載したり、生徒の学習意欲を高める工夫がされている。巻頭や巻末には、学習活動の進め方、探求学習の進め方について説明する図や文章を掲載して、主体的に学習に取り組むことができるような工夫が見られる。また、随所に生徒による対話形式のイラストや図を配置し、思考のヒントを与えたり、課題設定から計画を立て、科学的思考により結論を見出せるような構成になっている。

次に、学校図書「中学校化学」について。

各単元の導入において、学習内容や日常生活につながる写真やイラストなどを視覚的にもわかりやすく掲載したり、探求して学習した内容を活用する場面を設定したり、生徒の学習意欲を高める工夫がされている。科学的探究や考察の進め方の例を示し、学ぶ過程がわかりやすくマークで示されるなど主体的に学習に取り組めるような工夫が見られる。また、実験を安全に行うことができるように、器具や道具の使い方が詳しく解説されており、巻末の科学的知見を広げる資料も充実した構成になっている。

次に、教育出版「自然の探求」について。

各単元において、生徒が主体的に疑問を見つける活動を設定したり、単元末には学習内容と日常生活を関連付けた「ハローサイエンス」を掲載したり、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。「思考力・判断力・表現力」を促す探究活動の進め方について説明し、その過程を確認できるようにする

など主体的な学習に取り組めるような工夫も見られる。また、カラフルなイラストを掲載し、身近な題材として、北海道に関連した教材や写真を多く掲載した構成となっている。

最後に、啓林館「未来へひろがるサイエンス」について申し上げる。

単元の導入時やまとめにおいて、生徒の興味を引き出す写真を掲載したり、日常生活や社会に関連したコラムを掲載したり、生徒の学習意欲を高める工夫がされている。探究活動の進め方についての説明が参照しやすく、その過程を確認できるようにするなど主体的に学習に取り組める工夫も見られる。また、生徒の興味関心を引き出すイラストや写真を掲載し、学習内容を活用して、身近な事象や日常生活に置き換えて考えるような構成になっている。

以上で、理科小委員会の報告を終わる。

(報告終了)

◆質疑応答

会 長／理科の調査研究報告についてご質問はないか。

Q／理科の学習過程においては、観察・実験が重要と考えるが、各出版社にはどのような特徴があるか。

A／どの出版社においても、観察や実験において、カラーの写真や図がふんだんに掲載されたり、視覚的に捉えられるような工夫がされたり、生徒が主体的に課題解決を図る学習ができるように作られている。

Q／各出版社の教科書のページ数や内容に、違いはあるか。

A／各出版社の第1分野と第2分野を占める総ページ数については多少の違いはあるが、学習指導要領に沿って構成されており内容に大きな差はない。

また、前回の教科書よりもページ数が削減されている出版社がほとんどである。内容もどの出版社も学習指導要領に則った作りとなっており、「見通しをもって観察・実験」「関係や規則性を表現する活動」「科学的に判断」など共通した構成になっている。

Q／各出版社における「主体的・対話的で深い学び」につながる学習活動の工夫はあるか。

A／どの出版社においても、「話し合い」「考えを広げたり深めたり」する学習活動を取り入れるような構成で、既習事項や下級学年と関連付けて「系統的・発展的」な学習ができるような工夫がされている。

Q／使用上の配慮についてはどうか。

A／どの出版社においても、「生徒の学習意欲を高める工夫」「主体的に学習に取り組むことができる工夫」や視覚的にも「ユニバーサルデザインフォント」を使用するなど配慮されている。

Q／授業において、どの学校でも端末の活用が進められているが、教科書で何か工夫はあるか。

A／全ての出版社においても、学習者用デジタル教科書の発行が予定されており、学習者と授業者がデジタル教科書を活用して授業を進めたり、家庭へ端末を持ち帰って学習するなどができるようになっている。また、全ての出版社で二次元コードが随所に提示され、観察・実験の動画やワークシート、問題などが示されるように工夫されている。

Q／学習の進め方等について、特徴的なものはあったか。

A／どの出版社においても、単元の巻頭で、見通しをもたせて学べるような工夫があり、学習のポイントや学び方や探究活動の進め方などについて、わかりやすく説明しその過程を確認できるなど、生徒が興味・関心をもち、主体的に学習できるようになっている。

Q／これまでの教科書との違いはあるか。

A／これまでの教科書よりも、二次元コード、ユニバーサルデザインフォント、SDGsの取り扱い等が充実している。

(質疑応答終了)

◆意見交換・採択協議

会 長／引き続き、理科の採択の審議に入る。

●5者とも内容については大きな差はないと感じたが、教育出版が優れていると感じた。理由としては、巻頭に基本的な学び方の学びの進め方を掲載し單元ごとに学んでいくことの流れがわかりやすく掲載されていることや、探求の進め方の順序を丁寧に説明し探求の各過程をマップで取り次ぐことなどで工夫されていることがあげられる。最後に、これからデジタル教科書と電子黒板というパターンで授業が進められることが多くなると思うが、各社のホームページでデジタル教科書のサンプルを探したところ、東京書籍と教育出版の2者しか見つけられなかった。この2者を比べると教育出版のデジタル教科書のサンプルが機能的だったと感じた。

●各社とも、内容に大きな差はなく、生徒が意欲的に取り組めるような興味・関心を引く工夫がされている。その中でも教育出版については、身近な生活体験や自然現象から生徒が主体的に疑問を見つけて、調べてみたくなるような活動が設定され、他者との話し合いや生徒が発表する場面へつながるよう工夫がされている。また、理科の学習と日常生活の関連を気付かせるような科学読み物が掲載されるなど、生徒の学習意欲が高まる工夫もあることから、教育出版が良いと考える。

会 長／他の意見はないか。

(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、理科は教育出版と決定することとしてよろしいか。

(異議なし)

それでは、理科については、全会一致で教育出版の教科用図書を採択することと決定する。

【音楽（一般・器楽合奏）】

◆委員長報告

委員長／音楽小委員会委員長、湧別町立上湧別中学校長の綾部雅一。

音楽小委員会は4名の調査委員で、7月4日に開催された第1回調査委員会以降、「教科書編集趣意書」、道教委発行の「採択参考資料」等を参考資料としながら、調査研究を行った。音楽科の学習には「表現」と「鑑賞」の二領域があり、そのうち「表現」の学習には「歌唱」、「器楽」、「創作」の三分野がある。また、それらの学習を支えるものとして位置付けられる共通事項を身に付けることができるよう指導することとされている。報告書には、それぞれの領域・分野の内容や共通事項の取扱い、さらには主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応、北海道とかかわりのある内容の取扱い等の各観点について、発行者別にその特徴を記載している。

まず、音楽一般について、各者に共通する特徴を中心に申し上げる。

「表現」、「鑑賞」の各領域については、曲想と形式の関わりや、曲の構成などを理解しながら、必要な技能や共通事項を身に付け、表現を創意工夫したり、よさや美しさを味わって聴いたりすることができるような内容が取り扱われている。また、主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、曲から感じ取ったことをもとに表現を工夫する学習活動など、音楽的な見方・考え方を働かせ、考えを広げたり深めたりしながら表現活動ができるよう工夫されている。北海道と関わりのある内容については、ソーラン節や江差追分などの郷土民謡のほか、教育出版ではアイヌ民謡、教育芸術社ではアイヌ古式舞踊が取り扱われている。

使用上の配慮については、生徒の学習意欲を高めるような音楽家からのメッセージや学習の見通し、活動例を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。また、1人1台端末の活用に配慮した二次元コードの掲載や生徒の特性に配慮したユニバーサルフォントの使用など、使用上の便宜が図られている。以上が各者に共通する特徴であり、その他の細かな相違点については報告書にあるとおり。

次に「器楽合奏」について各者に共通する特徴を中心に申し上げる。各者とも、リコーダーや和楽器など様々な楽器を取り扱っており、それぞれの楽器の特徴や基本的な奏法、曲想と音楽の構造との関わりなどを理解しながら

ら、必要な技能や[共通事項]を身に付け、表現を創意工夫できるようになっている。また、主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、活動のポイントを例示し、動画コンテンツで模範演奏を視聴したり、曲の構成を生かして表現を工夫したりするなど、考えを広げ深めることができるよう工夫されている。北海道と関わりのある内容については、教育出版では北見市出身のリコーダー奏者・安藤由香氏、教育芸術社では清里町出身の打楽器奏者・石若駿氏が取り上げられている。使用上の配慮については、生徒の学習意欲を高めるよう多様な楽曲や楽器が取り扱われ、奏法に関する写真や学習活動のポイントを示すなど、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。また、1人1台端末の活用に関し配慮した二次元コードの掲載や生徒の特性に配慮したユニバーサルフォントの使用など、使用上の便宜が図られている。その他、細かな相違点については報告書にあるとおり。

以上で音楽小委員会の報告を終わる。

(報告終了)

◆質疑応答

会 長／音楽の調査研究報告について質問等はないか。

Q／学習指導要領に示されている「歌唱共通教材」は、それぞれどのように取り扱われているか。

A／「歌唱共通教材」については、7曲ある中から「学年ごとに1曲以上を含めること」とされている。教育出版では、1学年で「夏の思い出」と「赤とんぼ」、2・3学年(上)で「浜辺の歌」と「早春賦」、(下)で「花」と「荒城の月」が取り扱われている。教育芸術社では、1学年で「浜辺の歌」と「赤とんぼ」、2・3学年(上)で「夏の思い出」と「荒城の月」、(下)で「花」と「花の街」、「早春賦」が取り扱われている。

Q／我が国や郷土の伝統音楽について、具体的にどのように取り扱われているか。

A／生徒が我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、良さを一層味わえるようにしていくことのさらなる充実が求められている。この点を踏まえ、両者とも郷土のさまざまな民謡をはじめ、箏曲、尺八曲といった器楽曲、雅楽や歌舞伎、能、文楽、長唄など、幅広く伝統芸能が取り扱われている。これらとは別に、教育出版では平調子を使った創作、教育芸術社では義太夫節が取り扱われている。

Q／「国歌」について、どのように取り扱われているか。

A／「国歌」については両者とも見開きページで取り扱われており、歌詞の大意がわかりやすく解説されている。教育出版では、ワールドカップ試合前に選手が歌う様子や「細石」の写真、教育芸術社では、オリンピックの開会式で国旗掲揚に合わせて歌う歌手の写真が掲載されている。

Q／共通事項に関する学習活動について、具体的にどのように取り扱われているか。

A／共通事項とは、音色やリズム、速度などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連について聴き取ったことと、それらによって生み出される特質や雰囲気について感じ取ったこととの関わりについて考えること、そして音楽を形づくっている要素や用語、記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解することである。教育出版では、「学習の進め方」をもとに、曲の特徴についてまとめたり、共通点や相違点について紹介したりする活動が取り上げられている。教育芸術社では、1年間の学びを俯瞰する「学びの地図」をもとに、音色や旋律に着目して聴き比べたり、特徴をまとめたりする活動が取り上げられている。

Q／器楽における和楽器について、具体的にどのように取り扱われているか。

A／生徒が我が国や郷土の音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるよう工夫することが求められている。この点を踏まえ、両者とも箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八について各部の名称や姿勢、構え方、基本的な奏法などについて掲載している。

Q／SDGsについては、具体的にどのように対応しているか。

A／各者ともSDGsとの関わりのあるページを設けており、ターゲットアイコンを配置し目標との関連を示している。教育出版では、教育や福祉の場に“出前演奏”を提供する「アウトリーチ」など、ターゲットに関してどのような取組ができるのか考えるきっかけになるページを設定している。教育芸術社では、「音や音楽の果たす役割」、「人と人をつなぐ音楽」、「仕事と音楽」など、音や音楽が生活や社会、文化とどのような意味や価値をもつかを考えるページが設けられている。

(質疑応答終了)

◆意見交換・採択協議

会 長／引き続き、音楽の一般の採択の審議に入る。

●各者に特徴があるが、2者を比較し、教育出版が良いと考える。「主体的、対話的な学び」の実現に向けた学習活動が、計画的に進められる配慮がされており、その上で音楽に親しみ、楽しむ工夫がされている。また、色鮮やかな図表や挿絵、写真がバランスよく配置されており、エピソードやインタビューなどもその場面などに適切に掲載されており、全体的に生徒の興味を引く工夫がされている。さらには、一人一台端末による学習活動への配慮として二次元コードの掲載やデジタルコンテンツが豊富にあり、効果的に活用できる工夫がされていることなどから、教育出版が良いと考える。

●各者とも音楽文化との関わりのある音楽を愛する心を育む工夫がされており、

自ら音楽を楽しむ表現する技能を身に付けられるようになっていっていると思うので、各社の大きな差はないと思うが、中でも教育出版の方が表現と鑑賞のバランスや活動の仕方がよりわかりやすく楽しく取り組める工夫がされていると思うので教育出版が良いと思う。

会 長／他の意見はないか。

(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、音楽の一般は教育出版と決定することとしてよろしいか。

(異議なし)

それでは、音楽の一般については、全会一致で教育出版の教科用図書を採択することと決定する。

引き続き、器楽合奏の採択の審議に入る。

●音楽一般については教育出版が採択されたので、音楽一般とのつながりということも踏まえ、器楽についても教育出版ということで良いと考える。さらに教育出版は、楽器の演奏法が段階的に身に付くよう、詳細に図解で示したり、楽器の構え方などが写真でわかりやすく掲載されていること、また、和楽器の取り扱いも、他社に比べて多く扱われており、郷土の音楽の良さや愛着を持つことができるよう工夫がされていることもあり、教育出版が良いと考える。

会 長／他の意見はないか。

(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、音楽の器楽合奏は教育出版と決定することとしてよろしいか。

(異議なし)

それでは、音楽の器楽合奏については、全会一致で教育出版の教科用図書を採択することと決定する。

【美術】

◆委員長報告

委員長／美術小委員会委員長、大空町立東藻琴中学校 教頭の吉村由紀子。

3名の調査委員で各者教科書について、お手元の調査研究報告書に書面上記載できなかった内容を中心に報告する。

まずは開隆堂55ページ。

絵や彫刻については、第1学年は報告書の記載のとおり。第2・3学年では、墨の濃淡や筆遣いによって、空間の広がりや奥行きのある絵を描いたり、心に残る情景を立体に表現したりする活動を通して、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫して創造的に表現できるような配慮が見られ、それらの活動を通して目標を達成できるようになっている。デザインや工芸については、第1学年では、身の回りにある形や色彩から模様を考えたり、木の特長を生かした使いやすい工芸品を作る活動を通して、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技法を身に付け、意図に応じて創意工夫し、創造的に表現する活動を通して目標を達成できるようになっている。第2・3学年は報告書に記載のとおり。鑑賞については、第1学年では、屏風や浮世絵など江戸時代の美術について話し合う活動を通して、造形的な特徴や美術作品についての基礎的な理解や見方を広げたり、美術文化に対する関心を高め、良さや美しさなどを味わうことができる構成になっている。第2・3学年については報告書に記載のとおり。

次に光村図書56ページ。

絵や彫刻については、第1学年は報告書の記載のとおり。第2・3学年では、目の錯覚を利用して形や色彩のトリックを使って絵を描いたり、空想の世界の動物を立体に表したりする活動を通して、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫して創造的に表現できるような配慮が見られ、それらの活動を通して目標を達成できるようになっている。デザインや工芸については、第1学年では、形や色彩が見る人に与える効果を理解してロゴマークのデザインを考えたり、使いやすさや装飾の美しさを考えて焼き物を作るなど、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技法を身に付け、意図に応じて創意工夫し、創造的に表現する活動を通して目標を達成できるようになっている。第2・3学年については報告書の記載のとおり。鑑賞については、第1学年では、版画の線や面、色の重なりなどの表現の良さや特徴について話し合う活動を通して、版画と絵の表現の違いや美術作品についての基礎的な理解や見方を広げたり、美術文化に対する関心を高め、良さや美しさなどを味わうことのできる構成になっている。第2・3学年については報告書の記載のとおり。

続いて日本文教出版57ページ。

絵や彫刻については、第1学年は報告書の記載のとおり。第2・3学年では、視点の違いや構図を工夫して印象の変化を生かした絵を描いたり、動物の特徴やイメージを立体に表したりする活動を通して、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫して表現でできるような配慮が見られ、それらの活動を通して目標を達成できるようになっている。デザインや工芸については、第1学年では、自然物や人工物の特徴から模様を考えたり、木の質感や特性、形や色彩に着目し、使う場面を考えて道具を作るなど、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技法を身に付け、意図に応じて創意工夫し、創造的に表現する活動を通して目標を達成できるようになっている。第2・3学年については報告

書の記載のとおり。鑑賞については、第1学年では、原始美術の造形的な良さや意図について話し合う活動を通して、当時の人々の願いや作者の意図や美術作品についての基礎的な理解や見方を広げたり、美術文化に対する関心を高め、良さや美しさなどを味わうことのできる構成になっている。第2・3学年については報告書の記載のとおり。

次に各者の主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習の活動については、いずれの教科書も題材において学習課題を設定して見通しを持たせるとともに、グループなど生徒同士で交流するなど、考えを広げたり、深めたりする活動に重きを置いている。また、内容の構成・排列については、各者とも各題材において、目標を「知識や技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力」の3観点で示したり、教科横断的に学習できるように構成されていることがあり、全学年の巻末で「学習を支える資料」が掲載されていて、まとめの資料や作品制作の表現技法、地域の美術文化の紹介等、生徒の学習意欲を高める工夫がされている。

最後に小委員会における調査研究、協議したことで、特徴的な部分を三点報告する。1点目は各者とも、鑑賞のための作品が見開き4ページでワイドに掲載されていたり、写真が豊富で多様性のある教科書となっていること、また、質感の違う紙や、実寸大、見開き等が活用された構成で実感的な学びを得ることができること、2点目は、作者の言葉や制作過程の様子が写真で紹介されていたり、各題材、学習のポイントをマーク等で示されていたり、二次元コードから一人一台端末で教科書には掲載されていない生徒作品や技法説明及び学びのヒントとなる動画が鑑賞できるなど、学習意欲を高める工夫がされていること、3点目はこれらの工夫を通して生徒が学習しやすい教科書であることはもとより、免許外指導している先生が多い現状から考えると、より適切に指導できるように配慮、工夫がされていることなどを中心に協議した。

以上、美術小委員会の報告を終わる。

(報告終了)

◆質疑応答

会 長／美術の調査研究報告について質問等はないか。

Q／教科書検討にあたり、各者の主なねらいや特色は何か。

A／各者とも、授業で使いやすい教科書となるような工夫が随所で見られる。具体的には、各題材で、発想の手立てや制作の過程・様子、作者の言葉が紹介されていて、生徒が発想を広げて多様な表現につなげるような配慮がされている。また、巻末や別冊の資料が充実していて、表現のためのさまざまな技法や用具の使用法、美術史などが掲載されていることで、生徒の学習意欲を高められるようになっている。また、随所に二次元コードが掲載され、技法などの動画や音声ガイド、生徒作品などのコンテンツにリンクさせることができる。また、カラーユニバーサルデザインの採用やSDGs（持続可能な開発目標）を

取り上げるなど、これからの社会情勢に対する配慮が各所に見られる。

Q／製本に当たり、図版や写真、書体、レイアウト等において各者の違いは何か。
A／各者とも、生徒作品や鑑賞作品の図版や写真が豊富かつ多彩な構成でレイアウトされている。絵画作品などは本物の色合いにこだわっていることがわかり、印刷技術の向上が伺える。また、題材名、主文はUDフォントを使用している見やすさが考慮されている。開隆堂は、多くの生徒作品を掲載するとともに「作者のことば」も提示し、さまざまな個性や特性があることを学べるように工夫されている。また、福祉と美術の関わりを学ぶページが設定されており、インクルーシブ教育に対応できるように配慮されている。さらに、教科書の表紙絵が凹凸加工されており、テクスチュアを感じられる仕組みとなっている。光村図書は、版画版等の鑑賞題材では和紙など風合いのある用紙を使用したり、「ゲルニカ」を両面見開きにして迫力を持たせるなど、鑑賞活動が深まるような工夫が見られる。また、巻末の技術資料が別冊となり、教科書と技術資料を見比べて制作することが可能となる。日本文教出版は、「美術2・3」が上巻・下巻に分冊されており、1冊の軽量化と発達の特性に応じた学習活動が行えるよう配慮されている。また、原寸大や拡大された写真が多く掲載されており、より実感的な作品を鑑賞するページでは厚手の用紙が使用されるなどの配慮が多く見られる。

Q／美術科においても、言語活動の充実が大切と考えるが、この点について各者どのような配慮がなされているか。

A／各者とも、作者の思いや制作の意図を伝える「作者の言葉」を掲載し、形や色彩などを言葉で伝え合うことで生徒のコミュニケーション能力の育成と言語活動の充実を図るよう配慮されている。

Q／主体的・対話的で深い学びへの対応にどのような工夫がなされているか。

A／各者とも、各題材の巻頭に「学びの目標」を示すことで、生徒が見通しを持って活動できるようになっている。また、「造形的な視点」「学習のポイント」「発想や構想」のアドバイスや活動の様子が掲載されており、それを基に生徒が考えを伝えあったり、友人と相談したりしながら、協働して造形活動を進めるなど、対話を通して深めることができるように工夫されている。

Q／日本の伝統的な文化についての配慮がなされているか。

A／各者とも、題材や資料において、伝統工芸や伝統文化に関わる作品が多く取り上げられている。北海道をはじめ、日本全国の伝統工芸・文化がくまなく紹介されるように配慮されている。

(質疑応答終了)

◆意見交換・採択協議

会 長／引き続き、美術の採択の審議に入る。

●各者とも大きな差はないと思うが、日本文教出版の方が多様な表現方法が詳細に解説されており、材料や道具の使用方法についても詳しく説明されていることや図表や写真、イラストが効果的に配置されている。また生徒の興味を引くようなカラフルで魅力的なデザインが施されていたり資料動画や作品スライドショー基本解説動画など全ての二次元コンテンツはシートに応じた個別最適な学びに対応した共同的な学びに活用できる内容となっていることから、日本文教出版の方が良いと考える。

●各出版社とも内容はそれぞれ工夫されているものの、日本文教出版は二次元コードの内容が一番充実しており、1年及び2・3年上下の3冊構成といった分量が扱いやすいと思う。また、全学年の随所で、造形的な視点を示すなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がされているので、引き続き日本文教出版が良いと思う。

会 長／他の意見はないか。

(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、美術は日本文教出版と決定することとしてよろしいか。

(異議なし)

それでは、音楽については、全会一致で日本文教出版の教科用図書を採択することと決定する。

【保健体育】

◆委員長報告

委員長／保健体育小委員会委員長、小清水町立小清水中学校長の杉山英司。

保健体育小委員会は、4名の調査委員で、7月4日に開催された第1回調査委員会以降、「教科書編集趣意書」、道教委発行の「採択参考資料」等を参考とし、観点に従って調査研究を行った。すべての発行者の特徴として、「取扱内容」と「使用上の配慮等」の2点について報告する。

最初に、東京書籍「新しい保健体育」について報告する。

「取扱内容」については、主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応について、運動やスポーツの意義や効果と学び方、安全な行い方の学習において、学習課題を設定し、生徒に見通しを持たせるとともに、運動やスポーツの効果を資料等をもとに考え、みんながスポーツを楽しむための工夫について話し合い、日常生活でどのように役立てるかをさらに考えるなど、自分の考えを広げたり、深めたりする活動に取り組めるよう工夫されている。「使用上の配慮等」については、巻頭に「SDG s」「テクノロジー」「情

報」を切り口とした口絵を掲載したり、各章末に章の学習に関連した資料を取り上げたりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。その他の観点における調査研究結果は報告書に記載のとおり。

次に、大日本図書「中学校保健体育」について報告する。

「取扱内容」については、主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応について、運動やスポーツの多様性の学習において、学習課題を設定し、生徒に見通しを持たせるとともに、資料を参考に運動やスポーツへの関わり方にはどのような楽しさや魅力があるかを話し合い、自己の今後の運動やスポーツとの関わり方について考えるなど、自分の考えを広げたり、深めたりする活動にとりくめるよう工夫されている。「使用上の配慮等」については、巻頭に魅力のある写真や現代的なテーマの口絵を掲載したり、学習内容に関連した「トピックス」や「ミニ知識」を取り上げたりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。

次に、大修館書店「最新中学校保健体育」について報告する。

「取扱内容」については、主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応について、運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方の学習において、学習課題を設定し、生徒に見通しを持たせるとともに、「身につける・考える」で映像資料等を基に運動やスポーツの心と体への効果について理解し、「まとめる・振り返る」で自分の体力の状態を見直し、体力を高めるための計画を立てるなど、自分の考えを広げたり、深めたりする活動に取り組めるよう工夫されている。「使用上の配慮等」については、巻頭の口絵で現代社会の中で、健康課題として浮上しているテーマを取り上げたり、今日的な課題をコラムや特集資料として掲載したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。

次に、学研「新中学保健体育」について報告する。

「取扱内容」については、主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応について、スポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方の学習において、学習課題を設定し、生徒に見通しを持たせるとともに、キーワードを基にスポーツが心身や社会に及ぼす効果について調べ、話し合う活動を行い、自分がスポーツを日常的に行ったときの効果について考えるなど、自分の考えを広げたり、深めたりする活動に取り組めるよう工夫されている。「使用上の配慮等」については、巻頭の口絵でスポーツの魅力や価値を感じられる写真等を掲載したり、各章の扉にこれから学びたいことや学んだことを表現する欄を設けたりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。その他の観点における調査研究結果は、報告書にあるとおり。以上で、保健体育小委員会の報告を終わる。

(報告終了)

◆質疑応答

会 長／保健体育の調査研究報告について質問等はないか。

Q／指導要領では運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養うことが求められているが、このことについて、各者、どのような配慮がなされているか。

A／各者とも、運動の継続の仕方、健康・安全の確保の仕方など、これまで学習した運動や健康に関わる科学的な知識や技能を活用し、自己や仲間の課題を追求することで、合理的な解決に向けて思考し、判断できるよう配慮されている。また、発見した健康に関する課題については、これまでに習得した知識及び技能を活用して解決方法を考えるとともに、インターネットや書籍、実地調査やアンケート調査によって探求できるよう工夫されている。さらに、自己や仲間の課題を、ディスカッション、ロールプレイング、ブレインストーミングなどを活用することで他者に伝える力を養い、仲間と共に学びを深められるよう配慮されている。

Q／ 今日的教育課題への対応として、感染症の取り扱いについて、各者、どのような配慮がなされているか。

A／各者とも感染症の予防については、中学３年生の「健康な生活と疾病の予防」において取り扱っており、インフルエンザ、風疹、結核、コレラ、ノロウイルス、新型コロナウイルス（読み物）等に加えて性感染症を取り上げ、発生要因や感染経路、感染予防について理解を深める構成となっている。さらに、社会的な取り組みが個人の健康を支えていることに気付くことができるよう配慮されている。

Q／体力・運動能力の向上は子どもたちにとって課題となっているが、このことについて、各者どのように配慮しているか。

A／各者とも、心身の発育・発達には個人差があり、性別や年齢、障がいの有無にかかわらず、運動することの必要性和楽しさについて学べるよう配慮されている。保健分野・体育分野全体を通して身に付けた資質・能力により、現在そして将来における健康に関する課題に対して、科学的な思考と正しい判断のもとに行動選択を行い、実践できるよう工夫されている。また、新体力テストの資料が掲載されており、全ての種目の実施方法や記録方法、注意点などをイラスト入りで詳しく取り扱われている。

（質疑応答終了）

◆意見交換・採択協議

会 長／引き続き、保健体育の採択の審議に入る。

●各者とも学習指導要領の総則及び各学年の目標を達成できるよう十分工夫された学習活動で構成されていると思う。中でも東京書籍は、見開き構成で１見開きを１単位時間とし、左側に本文、右側に資料、二次元コードは右下と統一された

ユニバーサルデザインで学びやすい紙面で、「見つける」「学習課題」「課題の解決」「活用する」「広げる」といった学習の流れが明確で生徒が見通しを持って学習に取り組める構成になっている。さらに、日常経験などから学習課題につながる発問を設定するなど学習意欲を高める工夫がされているほか、動画や思考ツール、シミュレーション、などデジタルコンテンツを多く取り入れて生徒が思考・判断・表現しやすく学びを広げる工夫がされている。以上のことから東京書籍がよろしいのではないかと思う。

●各者とも、大変工夫されているが、その中でも「東京書籍」が良いと思う。巻頭口絵で「SDGs」「テクノロジーの変化」「情報の活用」が記載されており、生徒の学習意欲を高める工夫がされている。また、日常体験や既習事項をもとに、考える・話し合う学習活動を位置づけ、習得した知識・技能を活用したりするなど、主体的な学習につながる工夫がされている。さらには、「巻末スキルブック」で命と健康を守るために必要なスキルをいつでも確認できるようになっており、生涯にわたって役に立ち、生きる力を身に付ける工夫がされていることなどから、「東京書籍」が良いと思う。

会 長／他の意見はないか。

(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、保健体育は東京書籍と決定することとしてよろしいか。

(異議なし)

それでは、保健体育については、全会一致で東京書籍の教科用図書を採択することと決定する。

【技術・家庭】

◆委員長報告

委員長／技術・家庭小委員会委員長、湧別町立開盛小学校 校長の落合利広。

技術・家庭小委員会は7名の調査委員で、7月4日に開催された第1回調査委員会以降、「教科書編集趣意書」、道教委発行の「採択参考資料」等を参考資料としながら、観点に従って調査研究を行ってきた。技術分野と家庭分野に分け、発行者の特徴として、取扱内容と使用上の配慮事項等の2点について報告する。

最初に、技術分野の東京書籍『新編 新しい技術・家庭 技術分野～未来を創るTechnology～』について報告する。取扱内容については、技術分野の目標が達成できるよう、「A材料と加工の技術」において、身の回りの製品の工夫を調べることを通して、材料と加工の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解したり、生活や学校、社会の中から問題を見出し解決する学

習活動を通して、材料と加工の技術を工夫し創造したりする活動が取り上げられている。「D情報の技術」において、生活や社会の中で使われている情報の技術を見付け、まとめることを通して、情報の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解したり、より良い生活の実現に向けて、情報の技術でできることについて考えることを通して、情報の技術を工夫し創造したりする活動を設けるなど、深い学びの実現のための工夫をしている。使用上の配慮事項等については、各節の冒頭に考えを交流し合う「始めの活動」や、学習内容を振り返り、次の学習につなげる「まとめの活動」を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。

次に、教育図書『新 技術・家庭 技術分野～明日を創造する～、新技術・家庭 技術分野～明日を創造する スキルアシスト～』について報告する。取扱内容については、「A材料と加工の技術」において、身の回りの製品の開発の工夫と問題解決の進め方について調べることを通して、材料と加工の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解したり、身の回りで不便に感じていることなどの問題の解決に向けた学習活動を通して、材料と加工の技術を工夫し創造したりする活動が取り上げられている。「D情報の技術」において、身近な生活や社会で利用されている情報の技術について考え、見付けることを通して、情報の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解したり、情報の技術の役割や影響を踏まえ、新しく開発したい技術について考えることを通して、情報の技術を工夫し創造したりする活動により、深い学びを実現できるように配慮されている。使用上の配慮事項等については、学習の流れを明確にするための「見つける」「学ぶ」「ふり返る」の3つのステップや、学習内容を自ら確認し、振り返りにつなげる「めあて」を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。また、技能に関する資料を別冊にするなど、生徒の学習意欲が高まるように工夫されている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。

次に、開隆堂『技術・家庭 技術分野～テクノロジーに希望をのせて～』について報告する。取扱内容については、「A材料と加工の技術」において、身の回りの製品に使われている材料と使用場面の取扱について調べることを通して、材料と加工の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解したり、日常生活を見直して問題を見出し解決する学習活動を通して、材料と加工の技術を工夫し創造したりする活動が取り上げられている。「D情報の技術」において、情報の技術と身の回りにある製品やサービスとの関わりについて考えることを通して、情報の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解したり、自身が経験した問題解決の過程と社会における問題解決をつなげて考えることを通して、情報の技術を工夫し創造したりする活動ができるよう工夫されている。使用上の配慮事項等については、各小項目の冒頭に学習の見通しを持つ「学習の目標」や、学習内容について自分で振り返るための「CHECK」を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載

のとおり。

続いて、家庭分野について報告する。

まず、東京書籍『新編 新しい技術・家庭 家庭分野～自立と共生を目指して～』について報告する。

取扱内容については、「B衣食住の生活」において、食生活、衣生活、住生活に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、それらの課題を解決する力を養い、衣食住の生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成するよう、環境のことを考えた調理を行ったり、住まいの中の危険について考えたりする活動を取り上げている。使用上の配慮事項等については、学習のまとまりごとに、生徒が自分の課題に気づくために生徒キャラクターによる課題につながるヒントを示したり、学習したことを自分自身の生活に生かすために「生活に生かそう」を設けたりするなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。

次に、教育図書『新 技術・家庭 家庭分野～くらしを創造する～』について報告する。取扱内容については、「B衣食住の生活」において、食生活、衣生活、住生活に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、それらの課題を解決する力を養い、衣食住の生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成するよう、災害時を想定した調理を行ったり、健康を守る室内環境の整え方について考えたりする活動が取り上げられ、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう工夫されている。使用上の配慮事項等については、学習のまとまりごとに、学習前と学習後の自分の状況を比較し学習効果を実感するために「自立度チェック」を設けたり、生活の中の課題を、ステップに沿って解決するために「学びを生かそう」を設けたりするなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。

次に、開隆堂『技術・家庭 家庭分野～自立しとも支えあう生活へ～』について報告する。取扱内容については、「B衣食住の生活」において、食生活、衣生活、住生活に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、それらの課題を解決する力を養い、衣食住の生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成するよう、加工食品を活用した調理を行ったり、家族の希望を踏まえた部屋の使い方について考えたりする活動が取り上げられている。使用上の配慮事項等については、学習のまとまりごとに、自分事として、家庭生活・地域・社会に関心を持つために「生活の具体的な場面の例」を示したり、生活の中から考え、実践するために「やってみよう」を設けたりするなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。

最後に、技術・家庭小委員会における協議の概要について。各者、技術・家庭両分野ともに、現代社会の課題であるSDGsやSociety5.0、エンカル消費、防災、家族や民族の多様性、性の多様性を上げるとともに、仕事と家庭両立させる「ワーク・ライフ・バランス」や「子どもの権利条約」など、他教科との教科横断的学習内容が増えており、どの教材を選択するかが重要に

なる。また、北海道に育つ生徒にとっては、北海道に関わりのある項目が少しでも多い方が、学習に対する意欲も増すことが考えられる。さらに、各者とも、教科書そのものが資料集の役割を果たせるように工夫されている。今回の改定でも、二次元コードにより、実験や実習の技術や手順が説明しやすいものとなっていて、生徒が実習中でも繰り返し視聴でき、家庭で実践する際の参考資料としても大いに役に立つ。各領域の最後に、学習の振り返りのページがあり、三観点での自己評価や、単元テストができるように配慮されているという特徴がある。

以上で、技術・家庭小委員会の報告を終わる。

(報告終了)

◆質疑応答

会 長／技術・家庭の調査研究報告について質問等はないか。

Q／生徒が興味を持って学習することができるよう、地域の実態などを生かした指導をすることが求められているが、北海道の素材を活用している資料について、各者、どのように取り扱っているか。

A／各者とも技術分野の「B生物育成の技術」と家庭分野の「B衣食住の生活」の食生活において、農業王国北海道にふさわしく、農産物や酪農、水産物、食文化をイラストや写真で掲載している。また、ICTやAIなどの最新のテクノロジーを利用したスマート農業や、北海道で起きた自然災害にもふれており、身近な話題で興味を持ちやすくなっている。

Q／コンピュータや情報通信ネットワークの活用などのICT教育が適切に行えるように、技術分野でどのように配慮されているか。家庭分野での工夫は何か。

A／技術分野のプログラミングについて、各者とも大幅にページを増やし、無理なくプログラミングの操作ができるように、アプリやプログラミングの実習題材を多数掲載し、それぞれ工夫されている。家庭分野では、各者とも、二次元コードを記載し、基礎技能動画を充実させ、技能の習得に役立つように工夫されており、実習や家庭学習にも活用できる。また、免許外の教員にとって、教材研究や準備の時間短縮につながるとともに、実習場面で大いに活用できるようになっている。

Q／主体的・対話的で深い学びが実現できるように、どのように工夫されているか。

A／技術分野・家庭分野ともに、実践的・体験的活動を通して、生活をより良くしようとする意欲を引き出し、自ら問題を見出し、課題を設定し、話し合いの活動や思考する活動、意見を述べる活動などさまざまな言語活動ができるように設定され、主体的・対話的・深い学びができるしくみになっている。

Q／2030年までの実施を目指すSDGsをどのように取り扱っているか。

A／技術分野・家庭分野ともに環境や共生を大切にする実践的態度が身に付くように、SDGsやSociety5.0について取り上げ、自然環境の維持や、持続可能な社会の構築に向けて責任のある行動が取れる生活者の育成を目指すとともに、技術の進歩で健康な生活を送ることに役立っていることが考えられるように配慮されている。

(質疑応答終了)

◆意見交換・採択協議

会 長／引き続き、技術・家庭の技術分野の採択の審議に入る。

●各者とも工夫をされており、調査・研究結果からも大きな差はないという印象であるが、実践的・体験的な学習活動を通して、生活をより良くしようとする意欲を引き出し、自ら問題を見出し、課題を設定して解決を図ることができるよう工夫されている点では、開隆堂がより優れていると考える。

会 長／他の意見はないか。

(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、技術・家庭の技術分野は開隆堂と決定することとしてよろしいか。

(異議なし)

それでは、技術・家庭の技術分野については、全会一致で開隆堂の教科用図書を採択することと決定する。

引き続き、技術・家庭の家庭分野の採択の審議に入る。

●技術分野とも重複する部分もあるが、各者とも工夫をされており、調査・研究結果からも大きな差はないという印象であるが、実践的・体験的な学習活動を通して、生活をより良くしようとする意欲を引き出し、自ら問題を見出し、課題を設定して解決を図ることができるよう工夫されている点では、開隆堂がより優れていると考える。また、義務教育学校や小中連携が増えている中、小学校と中学校の教科書のつながりを無視できないという観点からも、引き続き開隆堂が良いと思う。

会 長／他の意見はないか。

(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、技術・家庭の家庭分野は開隆堂と決定

することとしてよろしいか。

(異議なし)

それでは、技術・家庭の家庭分野については、全会一致で開隆堂の教科用図書を採択することと決定する。

(小休憩)

【外国語（英語）】

◆委員長報告

委員長／外国語小委員会委員長、遠軽町立白滝中学校校長の高倉公司。

外国語小委員会は、4名の調査委員で、7月4日に開催された、第1回調査委員会以降、「教科書編集趣意書」、道教委発行の「採択参考資料」等を参考資料としながら、観点に従って調査研究を行ってきた。小学校外国語が教科として位置付けられたことに伴い、各者とも内容や構成に大きな見直しが図られていた。各者共通した特徴として3点を挙げる。1つ目は、言語の習得の過程を意識して4技能5領域の学びを排列していること。また、目標・課題を示し、身に付けるべき力を明らかにして、主体的な学びを促していること。2つ目は、小学校外国語との学びの連続性を意図したつくりになっていること。3つ目は、一人一台端末を活用した学習活動を想定し、二次元コードを掲載したデジタルコンテンツを充実させていること。では、各者の教科書についてその特徴を報告する。

最初に、東京書籍 New Horizon について報告する。

教科書改訂のポイントは、単元末活動に向かってスモールステップの活動を設けていること、小中接続を重視していること、「未来を担う地球市民の育成」を目指した教材を掲載していること。各単元は、扉のページを配置し単元の目標を示している。本文では、短めの英文と文法事項の整理、まとまった分量の英文という3部構成になっている。各単元にはその内容についての自己表現活動であるUnit Activityが位置付けられており、その後、いくつかの単元を統合したStage Activityを設けている。自学を促す工夫として、各学年数か所に「学び方コーナー」を設けたり、巻末には帯活動による自己表現集や3年間の基本文を掲載したりしている。その他の観点における調査研究結果は、報告書にあるとおり。

次に、開隆堂Sunshineについて報告する。教科書改訂のポイントは、基礎・基本を確実に定着させること、3年間の到達目標が明確であること、自ら学ぶ生徒の育成をすること。各単元は、全学習者が習得すべき到達目標となる基本文例をストーリー性のあるマンガ形式で掲載し、学習者の興味・関心を引き付けている。各Programには、本文に関する導入活動が設けられ、スムーズに本文に入ることができる。英文の概要把握をもとにレビューやリテル等、思考力・表現力を発揮する言語活動がある。また、いくつかの単元を統合したProjectが3年間通して設定され、ステップアップをわかりやすくし

ている。巻末に動作を示すカードを入れ、基本動詞をアウトプットにつなげる活動がしやすくなっているほか、即興性のある表現活動や帯活動を掲載している。その他の観点における調査研究結果は、報告書にある通り。

次に、三省堂 New Crownについて報告する。教科書改訂のポイントは、身近で、話の続きが知りたくなるようなストーリーと話題を扱うこと、「伝えたい」「知りたい」が続く小学校からの橋渡し、「わかった」「できた」があふれる学びやすい構成。各単元は、学習者に興味をもたせる導入に続き、イラストやマンガを用いた文法事項の導入、短めの英文の読取と整理を経て、まとまった分量の読み物、または、自己表現活動という2種類の構成にし、学ぶべき技能を明示している。巻末には、イラスト付きの基本文集、会話で使えるつなぎ言葉やリアクション、ロールプレイなどコミュニケーションを意識した表現がまとめられている。第1学年では、小学校外国語とのつなぎ教材が準備されている。巻末の単語リストは、用法等の解説が詳しい。その他の観点における調査研究結果は、報告書にあるとおり。

次に、教育出版 One World について報告する。教科書改訂のポイントは、スムーズな小・中学校の接続、「生きた英語」の習得、未来を開く多様な題材。単元の導入で目標を明記し、単元末に振り返りを位置づけることで学習の見通しをつけさせる工夫をしている。本文は、読物と文法事項を統合的に学ぶ構成となっている。その後、いくつかの単元の学習事項を活用する場面としてProjectを設定している。英語学習のポイントを紹介するページや、4技能5領域の習得を目指した学習の仕方のヒントを紹介する「Tips」を設定し、自学を促す工夫をしている。また、即興性を養うActivity PlusやUseful Expressionなど、生徒の到達度に応じてそれぞれの技能を高めるための参考にできるよう工夫されている。巻末の単語リストは用法等の解説が詳しい。その他の観点における調査研究結果は、報告書にあるとおり。

次に、光村図書 Here We Go! について報告する。

教科書改訂のポイントは、英語を使う力がつく教材、構成と系統性、学び方を工夫・改善するためのガイドを充実させ、自ら学ぶ態度を育てる、学びを社会生活や未来につなぐ題材である。各単元は、目的・場面・状況を把握した上で英文と文法を統合的に学び、Goalでは読む活動と書く活動を設定している。本文には一貫したストーリーがあり、学習者の興味を引く工夫がされている。複数のUnitのまとめとしてYou can do it!の設定がある。帯教材や小教材等が準備されており、4技能5領域を系統的に学習できる工夫がなされている。巻末には、学年ごとの「英語の学び方ガイド」が丁寧に示されたり、即興的な活動ができる特設ページを掲載したり、表現内容の充実のための思考ツール素材が準備されたり、工夫が見られる。その他の観点における調査研究結果は、報告書にあるとおり。

次に、啓林館 Blue Skyについて報告する。

教科書改訂のポイントは、確かな英語力を育成する教科書、生徒の興味・関心と現代の諸課題に対応する指導と評価の一体化を実現する教科書ということである。各単元は、導入のページでinputとoutputの目標を確認し、3つのパートからなる本文で統合的に表現と文法を習得する。単元末には、

読んで・考える、または、聞いて・考える活動の2種類を準備している。その後、いくつかの単元を統合したProjectが設定されており、表現活動の機会となっている。各学年とも「英語の学び方」を随所に挿入し、自学を促す編集となっている。巻末には基本本文のまとめのほか、品詞別単語集など資料が充実している。その他の観点における調査研究結果は、報告書にあるとおり。

さらに、小委員会で協議した内容を3つの視点から報告する。1つ目は、小学校外国語との接続に関わる配慮である。小学校では、「聞くこと」「話すこと」の活動を中心に、場面設定での言語活動を行うことで、コミュニケーション能力の素地を培っている。小学校において音声中心で学んできたことを、文字につなげていく配慮が、全者で見られ、綴りと発音の関係を音声学の視点から丁寧に説明し、多くのページを割いている。また、既習事項とつなげるために、小学校で学習した単語を区別して標記したり、テーマを踏襲して内容を充実させていたり、小学校外国語とのスムーズなつながりが意図されている。2つ目は、主体的・対話的で深い学びにつなげる視点。こちらにも全者に共通するが、巻頭で教科書を使ってどのように学んでいくか、教科書の構成を説明し、個々の生徒が見通しをもって学びを進める配慮がされている。さらに、巻末に「Can-Doリスト」が掲載され、身につけるべき力を示すとともに、各自がチェックしながら学べるよう工夫がされている。3つ目は各者ともユニバーサルデザインに基づき、読みやすいフォントや配色について工夫がされている。

以上で、外国語小委員会の報告を終わる。

(報告終了)

◆質疑応答

会 長／外国語（英語）の調査研究報告について質問等はないか。

Q／小中連携に関わり、小学校外国語科で学んだ内容について引き継ぐために、各者の特徴的なものはなにか。

A／各者とも本単元に入る前に特設のページを設けている。主にClassroom Englishと呼ばれる授業の中で使われる英語表現や、文字と音の関係に関わる学習で構成されている。単語の扱いについては、小学校で600から800語、中学校ではそれに加え、1600から1800語程度とされ、中学校卒業までに下限でも2200語程度の単語を取り扱うこととなる。小学校で学んだ単語の扱いについては、各者とも巻末のリストにおいて小学校で学んだ単語がわかるように示している。その中でも、東京書籍・教育出版・啓林館は、小学校で学んだ単語については、中学校での初出のページ下に記載する配慮をしている。

Q／北海道の話題など、身近な題材に興味関心を持ち、英語を使って自分を表現したり、理解したりするために、各者どのような配慮がされているか。

A／北海道の記述については、各者とも日本の文化を伝えるために色々な題材を

使っているが、開隆堂が3年生で北海道のオオワシと獣医、三省堂が1年生でロコ・ソラーレを、啓林館が3年生で様似ダムの鮭の遡上水路と大谷翔平選手を、光村図書が2年生でアイヌ民族の萱野りえ氏を、教育出版が1年生で豊頃町のジュエリーアイス、2年生で旭山動物園を、3学年で釧路湿原のワシを単元のテーマとして取り上げ、扱いが多くなっている。なお、協議の中では、SDGsや環境問題、国際理解に関わる題材を取り上げて地球規模の視点で興味・関心を促す意図を、どの者からも感じるということもあげられている。

Q／デジタル教科書について、各者の特徴や配慮はあるか。

A／各者とも二次元コードが用意されアクセスが容易である。特に音声教材は、個別に発音やイントネーションを確認することができる仕組みになっている。教育出版、光村図書は、読み上げハイライトがついており、どこを読んでいるのかわかりやすくなっている。また、文法解説動画や教科書内容に関する動画や資料を準備することで、学習者に題材に対する興味を持たせたり、場面をイメージさせたりする工夫がなされている。東京書籍、教育出版ではワークシートにリンクされ、自学を促す工夫がなされている。

(質疑応答終了)

◆意見交換・採択協議

会 長／引き続き、外国語（英語）の採択の審議に入る。

●各者とも学習指導要領の総則及び外国語科の各学年の目標を達成できるように継続性や発展性を十分工夫された学習活動で構成されていると思う。中でも開隆堂出版は、充実したデジタルコンテンツで自律的な学習活動をサポートし、自ら学ぶ生徒の育成のために意欲的に取り組み、学習意欲を高める工夫がされているほか、主体的に学習に取り組む工夫としては、本文のリスニングやリーディングに目的意識を持って取り組むことができるようにされている。さらに、内容の構成や配列についての4技能5領域が系統的、発展的に学習できるように工夫され、基礎・基本を確実に定着させ、知識・技能を習得し、思考力・判断力・表現力を育成する単元の流れとなっている。これらのことから開隆堂が良いのではないかなと思う。

●各者とも大変工夫されているが、その中でも「開隆堂出版」が良いと思う。紙面構成では、登場人物を統一し、ストーリー性を持たせており、「Coffee Break」などでは、英語に興味関心が持てるように工夫され、「英語早わかり」や「CAN-DOリスト」などで、自分で学習内容を確認でき、到達度がわかりやすいため、復習しやすくなっている。さらに、小学校との接続も考慮されているなどから「開隆堂出版」が良いと思う。

会 長／他の意見はないか。

(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、外国語（英語）は開隆堂と決定することとしてよろしいか。

(異議なし)

それでは、外国語については、全会一致で開隆堂の教科用図書を採択することと決定する。

【道徳】

◆委員長報告

委員長／道徳小委員会委員長の網走市立呼人中学校長の神田秀樹。

道徳小委員会は、6名の調査委員で、7月4日の第1回調査委員会以降、道教委発行の「採択資料」をはじめ、オホーツク管内教育推進の重点等を参考としながら、統一した観点を設け調査研究を行った。それでは7者の「道徳」の教科用図書について報告する。

初めに東京書籍。

特徴として、「取り扱い内容」と「使用上の配慮等」について申し上げる。

「いじめ問題への対応」については、全学年に学習ユニット「いじめのない世界へ」を設け、読み物教材のほかに、イラストや漫画の教材など多様な教材を活用して、いじめ問題を多面的・多角的に考えられるように工夫している。また、多様性を尊重し合うウェルビーイングの実現のために、性の多様性や外国人の人権問題について取り上げるなど、互いに認め合う心を育むことができるように工夫している。言語活動については、各学年に、「つぶやき」という生徒が自由に考えを書き込めるメモ欄を配置し、話し合いや振り返りに活用できるようにしたり、巻末の心情円を活用して自分の考えを視覚的に表現したりできるようにしている。使用上の配慮等については、全教材に二次元コードが配置され、音声朗読とワークシートにアクセスできるようになっている。さらに、動画や画像、思考ツールにアクセスできるように工夫している。東京書籍の教科書の特徴は、人間としての生き方をさらに深く考えさせる補助発問を記載。今まさに活躍している人物を積極的に取り上げた親しみやすい人物教材、ICT機器の活用を前提としたコンテンツの充実に表示していると小委員会では考えている。その他の観点における調査研究結果は報告書に記載のとおり。

次に教育出版。

特徴として、「取り扱い内容」と「使用上の配慮等」について申し上げる。

「いじめ問題への対応」については、全学年にユニット「いじめをなくそう」を設定し、いじめや差別について、加害者・被害者だけでなく、傍観者にも目を向けた教材やコラムを通して、考えを深めていけるように工夫している。また、多様性を尊重し合うWell-beingの実現のために、性の多様性や合理的配慮を取り上げ、多様な価値観を認める態度を培うことができるよう

配慮している。言語活動については、各教材の終わりに「学びの道しるべ」を設け、道徳的価値について深く考えられるような発問例を示し、生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるようにしている。使用上の配慮等については、各教材のページに二次元コードが配置され、教材解説や動画、心情メーターなど、生徒の学習を支援する様々なコンテンツにアクセスでき、生徒が主体的に個別学習や協働学習、家庭においても学習ができるように工夫している。教育出版の教科書の特徴は、話し合う時間を確保するため、文章量を減らした読み物教材、3つの発問を記載した授業の流れが見える紙面、考えやすく親しみやすい日常生活を題材にした教材の充実表れていると小委員会では考えている。その他の観点における調査研究結果は報告書に記載のとおり。

次に光村図書。

特徴として、「取り扱い内容」と「使用上の配慮等」について申し上げる。

「いじめ問題への対応」については、全学年にさまざまな内容項目の教材で構成した「いじめを許さない心について考える」ユニットを設け、いじめ問題について多面的・多角的に考えられるようにしている。各学年の早い時期に、ユニットが設定されていることも特徴。また、多様性を尊重し合うウェルビーイングの実現のために、人権に関するコラムを全ての学年に系統立てて配置し、共に生きるために大切なことについて考えを深められるように工夫している。言語活動については、各学年に「まなびをプラス」を配置し、以前の学習で考えたことをもとに、さらに考えを深めたり、別の視点から考えたりすることで、生徒の思考力、判断力、表現力を育めるように工夫している。使用上の配慮等については、教材の二次元コードから、教材で取り上げた人物へのインタビューや、教材の理解を補足する資料、朗読音声などさまざまなコンテンツにアクセスでき、ICT機器が有効に活用できるように工夫している。光村図書の教科書の特徴は、学習課題が明示された教科書構成、実際の授業の流れに沿った発問例、人権やいじめを扱う教材の充実表れていると小委員会では考えている。その他の観点における調査研究結果は報告書に記載のとおり。

次に日本文教出版。

特徴として、「取り扱い内容」と「使用上の配慮等」について申し上げる。

「いじめ問題への対応」については、身近ないじめの事例やいじめの構造、コミュニケーションスキルなど、多様な教材をユニット「いじめと向き合う」として全学年に配置し、長期休業明けなど適切な時期に学習できるよう意図的に配置している。また、多様性を尊重し合うウェルビーイングの実現のために、「個性の伸長」や「相互理解、寛容」を重点化し、自分らしさやその人らしさについて考える教材を充実させている。言語活動については、別冊の道徳ノートに自分の考えや友だちの考えを記入できるようになっており、対話を通して深く学んでいけるように工夫している。また、学習状況を自己評価できる欄を設け、生徒の主体的な学びを促している。使用上の配慮等については、教科書の二次元コードから、デジタルワークシートやシンキングツール、動画や関連資料等のさまざまなコンテンツにアクセスできるように

なっており、ICT機器が有効活用できるように工夫している。日本文教出版の教科書の特徴は、筆記用具での記入と端末の打込み両方に対応した別冊道徳ノート、教材に関わる発問と生き方を問う発問の2つに厳選した発問構成、冒頭に登場人物の顔と名前を掲載した紙面構成に表れていると小委員会では考えている。その他の観点における調査研究結果は報告書に記載のとおり。

次に学研。

「いじめ問題への対応」については、いのちの教育を最重点において「生命の尊さ」についての教材を各学年三本ずつ配置するとともに、いじめについて直接的・間接的に考えられる教材を年間を通して掲載するなど、いじめについて深く考えられるように工夫している。また、多様性を尊重し合うWell-beingの実現のために、例えば、LGBTQに関して、発達の段階に合わせて教材を配置するなど、多様性を自分事として考えられるように工夫している。言語活動については、各教材に考えたことを記入し、話し合いに活用できるメモ欄を配置し、生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるように工夫している。使用上の配慮等については、教材タイトル下の二次元コードから、動画や写真、音声、ワークシートなどのさまざまなコンテンツにアクセスできるようになっており、ICTを活用して、多面的・多角的で深い学びができるように工夫している。学研の教科書の特徴は、最重点テーマを「いのちの教育」に置いた教科書編成、イラストや漫画を多用したわかりやすくイメージしやすい教材、教材への関心を高めるキープレーズ、に表れていると小委員会では考えている。その他の観点における調査研究結果は報告書に記載のとおり。

次にあかつき教育図書。

特徴として、「取り扱い内容」と「使用上の配慮等」について申し上げる。「いじめ問題への対応」については、系統的かつ重点的に学習を進められるようにユニット化し、複数の教材を連続して配置するとともに、各学年、5・6月に重点的に学習できるようにするなど、継続して学びを広げ、深められるように工夫している。また、多様性を尊重し合うウェルビーイングの実現のために、インクルーシブや国や文化の違い、LGBTQ+など、共に生きる社会を作るために、多様な課題に向き合う教材を取り入れている。言語活動については、役割演技や話し合いなどを取り入れ、生徒がいろいろな立場で想像したり考えたりできるような問い「マイ・プラス」を配置し、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるように工夫している。使用上の配慮等については、各教材のページに二次元コードが配置され、教材に関わる動画や写真、参考となる外部ページなどのデジタルコンテンツにアクセスできるようになっており、授業の導入や終末、授業後に参照することで、学びを広げることが可能となっている。あかつき教育図書の教科書の特徴は、2つの発問例と自分との対話を促す発問を全教材に記載、学びと視野を広げる多くの教材補助コラム、北海道に関わる教材の数の多さ、に表れていると小委員会では考えている。その他の観点における調査研究結果は報告書

に記載のとおり。

最後に日本教科書。

特徴として、「取り扱い内容」と「使用上の配慮等」について申し上げる。

「いじめ問題への対応」については、学校生活の中で「いじめ」に陥りやすい場面を積極的に取り上げ、自分事としていじめを考えることができるように工夫したり、SNSでの誹謗中傷を取り上げ、多面的・多角的にいじめについて考えを深められるように工夫したりしている。また、多様性を尊重し合うウェルビーイングの実現のために、人権について考え、認識を深めることができる教材を掲載するなど、生徒が多様性について自分事として考えられるように工夫している。言語活動については、導入や展開の場面で、巻末のウェルビーイングカードを活用して、生徒が互いの大切にしたい価値観を友達と共有した上で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるように工夫している。使用上の配慮等については、教材のページに二次元コードが配置され、教材にでてくる土地や人物、出来事について、より知識を深めるための写真や年表、プロフィールなどにアクセスできるようにするなど、生徒が主体的にICT機器を活用できるように工夫している。日本教科書の教科書の特徴は、動画教材、導入動画教材など、ビジュアル教材の工夫。生徒の問題意識を喚起させる4コマ漫画の活用。他者との交流を活性化させるウェルビーイングカード、に表れていると小委員会では考えている。その他の観点における調査研究結果は報告書に記載のとおり。

以上で「道徳」について報告を終わる。

(報告終了)

◆質疑応答

会 長／道徳の調査研究報告について質問等はないか。

Q／いじめ問題は、どのように扱われているか。

A／いじめを直接的・間接的に取り上げた教材数は、39か所が光村図書、29か所が教育出版、21か所が学研、19か所があかつき、15か所が東京書籍と日本文教出版、8が日本教科書となっている。いじめに関しては、各社ともユニットを組んで扱っている。ユニットとは、複数の教材を連続させて、集中的かつ、多面的・多角的に学習できるように配慮された教材配列の仕方。例えば、読み物教材の後に、いじめに関するコラムを掲載し、別な角度から考えたりできるように工夫されている。内容項目については、「友情、信頼」の教材と「公正、公平、社会正義」の教材、「よりよく生きる喜び」の教材というように、異なる内容項目の教材を組み合わせている。教材の内容に関しては、いじめを直接的に取り扱うもののみならず、間接的にいじめについて考えを深められるような教材も配置されている。また、いじめを単純に加害者、被害者の面から考えることのないよう、傍観者としての立場についても考えられるよう工夫されている。さらに、仲間外れや陰口など、従来のいじめ教材の題材にとどまらず、SNSを介したいじめや、意図しないまま、結果的に相手を傷つけてしまう場合など、複雑化、多様化するいじめの形態にも、各社の対応が進んでいる。

いずれも、自分事としていじめに向き合う心を育てることを意図している。

Q／情報モラルについて、どのような教材が作られているのか。

A／現代的な課題として、情報リテラシーにかかわる教材を扱い、系統的に情報モラル教育を進められるよう工夫されている。いじめと同じく、複数の教材でユニットを組んで集中的かつ多面的・多角的に学べるように配慮されている。従来は、ゲーム依存、インターネット依存、スマホ依存など、いわゆる「やりすぎて体調を崩してしまう」などの教材や、メールでの言葉の行き違いによるトラブルなどの教材が多かったが、今回は、それに加え、「個人情報の漏洩」、「間違った情報の発信」、「著作権の侵害」、「いじめへの発展」など、より幅広く具体的な事例に基づいた教材が増えている特徴がある。

Q／北海道に関連した教材はどのように扱われているか。

A／3年間を通して、10の教材で扱っている出版社が1者、あかつき。9教材で扱っている出版社が1者、光村図書。8教材の出版社が2者、学研と日本教科書。6教材の出版社が2者、東京書籍と教育出版。5教材の出版社が1者、日本文教出版となっている。そのうち、いわゆる読み物教材などの主教材として、ページを割いて扱っているのは、各者2から4教材と大きな差は見られない。4教材が4者、東京書籍、教育出版、学研、あかつき、3教材が2者、光村図書、日本文教出版、2教材が1者、日本教科書。アイヌ文化を中心的に取り上げた教材を排列しているのは、教育出版、光村図書、日本文教出版。各学年ではなく、全学年の中で1つの教材を扱っている。その他、知床世界自然遺産など、各社北海道の教材を配置し、ふるさと教育の充実に配慮している。

Q／前回の改訂から大きく変わった点はどこか。

A／総ページ数が前回より減少した出版社は3者。前回より増加が4者となっている。いじめや情報モラル、SDGsやウェルビーイングなど、各者現代的な課題の対応に多くのページを割いている状況。各者、デジタルコンテンツの充実が進んでいる。二次元コードはすべての出版社が活用できるようにしているが、参考資料の質や量、ワークシートが自分の端末から打ち込めるようになっているかなど、若干の違いが見られる。「考え、議論する道徳」を意識した教科書構成が進んでいる。発問例の見直しを図り、答えが1つではない発問が増えている。また、日常生活とのつながりを意識している発問が増えているのも違い。読み物教材の文章量を少なくして、読み取りに要する時間や生徒の負担を軽減し、本来の話し合いの時間を確保するよう努めている傾向が見られる。イラストや漫画、写真などの活用が前回より増えている。また、読み物教材の文字数を少なくしていることをうたっている出版社もある。いずれも、読み物教材の読み取りや内容理解に欠ける期間を減らし、その分生徒の思考する時間や話し合いの時間に充てようという出版社の意図がうかがえる。

(質疑応答終了)

◆意見交換・採択協議

会 長／引き続き、道徳の採択の審議に入る。

●今回の道徳教科書について、各社とも内容において大きな差はないと感じたが「人権について、考えることを重点に正面から人権を扱っていること」「差別・尊厳・多様性・尊重により、自分も他者も大切にする感覚を養う教材となっていること」「ユニットを設け、各学年３つの教材とコラムで構成され集中して学べること」「どうすれば自分も周りの人もより良く生きられるのか生徒が自分自身で考える教材になっていること」「なんでだろう、なんだろうで問うことの楽しさを感じられる工夫があること」が、わかりやすく、現在のキーワードである「SDGs」や「ウェルビーイング」について、生徒が見通しを持って学習に臨めるよう工夫されている点で、光村図書が良いのではないかと思料する。

●各社とも、学習意欲を高め、主体的に取り組む工夫は見られるが、光村図書は自分から学びたくなる構成となっており、「いじめを許さない心について考える」ユニットが全学年に設けられるなど、いじめ問題を多く取り上げ、また、情報端末における情報モラルについて、生徒の身近な問題を通して、道徳的価値について考えることができることから、光村図書で良いではないかと思う。

会 長／他の意見はないか。

(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、道徳は光村図書と決定することとしてよろしいか。

(異議なし)

それでは、道徳については、全会一致で光村図書の教科用図書を採択することと決定する。

【特別支援】

◆副委員長報告

副委員長／特別支援小委員会 副委員長 美幌町立美幌中学校教諭中坪利実。

小委員会３名の調査委員で特別支援学級用一般図書８冊について調査研究を行った。まずは、右側にＡ、Ｂ、Ｃで表記している「発達の段階」について説明する。表記は、障がいの程度及び発達段階を表したものである。Ａは、「話し言葉は持たないが、物事への興味や関心が出始め、簡単な物の弁別が可能な段階にあるもの」、Ｂは、「話し言葉を持ち、文字の読み書きに興味を持ち始め、物事の簡単な因果関係が分かる段階にあるもの」、Ｃは、「簡単な読み書きは可能であるが、学年相応の文部科学省検定教科書や文部科学省著作教科書では学習が困難な段階にあるもの」を示している。

はじめに、社会4冊から報告する。

「くらしに役立つソーシャルスキル—よりよく暮らす・働く・楽しむ—」「自分のこと」「相手のこと」「将来のこと」をテーマに、自分と社会との関連を考えながら知識及び技能の習得が図られるよう構成されている。多くの項目で自己や他者の考えを記述する欄が設けられており、主体的・対話的に学習できるよう配慮されている。文章での説明を基本に、必要に応じてイラストを活用して子どもがわかりやすく学べるよう工夫されている。

「いちばんわかりやすい 小学生のための 学習日本地図帳」は、各地方の地形や自然、観光や産業、代表的な文化等について、調べたり、まとめたりして活用できるよう構成されている。日本の農業、水産業、工業と貿易などについてのデータを日本地図を使ってわかりやすく表すなど、配慮されている。調べ学習に活用することができ、漢字には全て振り仮名が付けられているなど、工夫されている。

「いちばんわかりやすい 小学生のための 学習世界地図帳」は、各地域の地形や自然、人々や文化、産業の特徴等について、調べたり、まとめたりして活用できるよう構成されている。世界の農業・林業・漁業、工業と環境問題などについてのデータを世界地図を使って分かりやすく表すなど、配慮されている。調べ学習に活用することができ、漢字には全て振り仮名が付けられているなど、工夫されている。

「改訂新版 くらしに役立つ社会」は、地理的、歴史的、公民的な内容を社会で暮らしていくという視点で学べるよう構成されている。「くらしに生かそう」やワークシートの充実により、自分のこととして考えられるよう身近なものと結び付けたり、卒業後の日常生活に生かしたりできるよう配慮されている。振り仮名記載のほか、カラーUDの採用やUDフォントの表記により、読みやすいよう工夫されている。

次に、算数・数学2冊について報告する。

「さわる絵本 ちびまるのぼうけん」は、数や形に着目し、触覚を活用しながらしっかり観察する力を養うことができるよう構成されている。登場する図形が、四角、丸、三角と分かりやすい形が取り上げられており、大きさの区別もつきやすいように工夫されている。物語形式になっていることから、触覚を使って主人公を探し当てるなど、学習意欲を高める工夫がされている。

「初級編ステップアップ マッチングⅠ」は、数量や図形・色などについて基礎的・基本的な概念や性質に気づき理解できるよう構成されている。同じものを線で結んだり、シールを貼ったりするなど、目と手の協応動作や手指機能の向上をねらいとできるよう配慮されている。ワークシートを一枚ずつ剥がして使用し、段階的に学ぶことができるよう工夫されている。

次に、理科2冊について報告する。

「どんどんめくってはっけん！からだのふしぎ」は、分かりやすいイラストと簡潔な説明で、筋肉や骨などの体の仕組みや働きについて学べるよ

う構成されている。体の部位に付けられたしかけをめくると、イラストと詳細な説明が書かれており、楽しみながら学べるよう配慮されている。イラストは分かりやすく、文字は平仮名で重要な語句が太字になっており、分かりやすく学べるよう工夫されている。

「でんじろう先生の学校の理科がぐんぐんわかるおもしろ実験」は、写真や絵を主体に、簡単なコメントの解説により、楽しく学習を進めることができるよう構成されている。身近なものを活用することで、実験に取り組みやすいよう工夫されており、理科の内容がバランスよく取り上げられている。用語は簡単で、漢字にはふりがなが振られており、工夫されている。その他の観点における調査研究結果は、報告書の記載のとおり。

以上で8冊すべての報告を終わる。

(報告終了)

◆質疑応答

会 長／特別支援の調査研究報告について質問等はないか。

Q／特別支援学級では、これらの教科書をどのように使用し、子どもたちの学習を行っているのか

A／個々の子どもの障がいの程度や発達段階に応じて選択し、その教科の時間に使用している。指導に当たっては、担当する教諭が子どもの実態に応じて、一般図書を有効かつ適切に使用し、指導を工夫することで、子どもが無理なく理解できるようにしている。

Q／ユニバーサルデザインの効果はどうか？

A／各者、すべての会社がユニバーサルデザインを採用しているとは必ずしも限らないが、ユニバーサルデザインは、障がいの有無にかかわらず多くの方にとって見やすいものとして使われている。特にLDS（学習症）の方の中には、明朝体で印刷された文字は読み取ることに時間がかかる上に、疲れると聞く。私が指導した児童の中でも明朝体よりもユニバーサルデザインの文字の方が見やすいという声もある。このような声からもユニバーサルデザインの効果はあると思われる。

(質疑応答終了)

◆意見交換・採択協議

会 長／引き続き、特別支援の採択の審議に入る。

●いずれの図書についても、調査研究報告書のとおり、障害の程度や発達の段階に応じたさまざまな配慮がされており、分かりやすいイラストや写真を使ったり、漢字には全てフリガナが付けられるなど、ワークシートも使いやすく工夫されるなど、子どもが主体的に、興味・関心を持って取り組めるよう工夫がされており、

いずれの図書も有効に活用されることが期待できると考えられるので、全ての図書を採択すべきと考える。

会 長／他の意見はないか。

(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、特別支援は全種を採択することと決定してよろしいか。

(異議なし)

それでは、特別支援については、全会一致ですべての一般図書を採択することと決定する。

◆確認

会 長／以上で全教科、採択の審議が終了した。
確認のため再度、採択結果を読み上げる。

国語は「光村図書」、
書写は「光村図書」、
社会の地理的分野は「教育出版」、
社会の歴史的分野は「帝国書院」、
社会の公民的分野は「教育出版」
地図は「帝国書院」、
数学は「教育出版」、
理科は「教育出版」、
音楽の一般は「教育出版」、
音楽の器楽合奏は「教育出版」、
美術は「日本文教出版」、
保健体育は「東京書籍」、
技術・家庭の技術分野は「開隆堂出版」、
技術・家庭の家庭分野は「開隆堂出版」、
外国語は「開隆堂出版」、
道徳は「光村図書」、
特別支援については不採択がないため、「全種採択」となった。

以上で、令和7年度から使用する第9地区教科用図書の採択を終了する。

事務局／以上で本日の協議会を終了する。

午後3時30分 閉会

議事録署名人

会 長
北見市教育委員会教育長

佐々木 賢一 

副会長
置戸町教育委員会教育長

平野 毅 

(令和6年 8 月 30 日)